



Cisco Unity Express 8.5 インストール / アップグレード ガイド

Cisco Unity Express 8.5 Installation and Upgrade Guide

初回リリース : 2011 年 1 月 14 日

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。**

**また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任は一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Express 8.5 インストール/アップグレード ガイド
© 2011 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2011, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェア インストールの概要	7
ライセンス システム	8
Cisco Unity Express 8.5 モジュールのサポート	8
SM-SRE-900-K9 のサポート	8
AIM2-CUE、NME-CUE、および SRE モジュールの違い	8
サポートされないレガシー モジュール	9
新規ソフトウェア インストールのチェックリスト	9
Cisco Unity Express ソフトウェア アップグレードのタイプ	10
ソフトウェア アップグレードの概要	10
プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェアのイメージ	11
無停電電源装置の推奨	11
ソフトウェア ライセンスと工場設定の制限	11
その他の参照資料	12
Cisco Unity Express 関連資料	12
Cisco IOS 関連文書	12
MIB	13
RFC	13
シスコのテクニカル サポート	14
Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件	15
Cisco Unified Communications Manager Express の前提条件	15
Cisco Unified Communications Manager の前提条件	19
Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェアのインストール	23
タスク リスト	23
Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化	24
前提条件	24
例	26
言語の追加または削除	26
追加言語のインストール	26
前提条件	26
制約事項	26
例	28

言語の削除	29
次の作業	30
サービス レディ エンジン (SRE) モジュールへの Cisco Unity Express 8.5 のインストール	31
概要	31
タスク リスト	32
Cisco Unity Express モジュールへの IP 接続のアクティブ化	32
前提条件	32
例	34
SRE モジュールへの Cisco Unity Express アプリケーションのインストール	34
インストール ステータスのモニタリング	36
SRE モジュールからの Cisco Unity Express アプリケーションのアンインストール	37
次の作業	38
Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード	39
アップグレードの準備	39
アップグレード手順の概要	40
前提条件	40
新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード	41
タスク リスト	41
新しいソフトウェア イメージのダウンロードとインストール	41
既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード	47
タスク リスト	48
アップグレード イメージのダウンロードとインストール	48
次の作業	53
ブートヘルパーを使用した Cisco Unity Express イメージの再インストール	55
前提条件	55
タスク リスト	56
ソフトウェア ファイルのダウンロード	56
次の作業	57
設定パラメータ値の入力	58
次の作業	59
ソフトウェア イメージ ファイルのインストール	59
前提条件	59
次の作業	64

同じバージョンでの Cisco Unity Express ライセンスのアップグレードまたはダウングレード	65
Cisco Software Licensing (CSL) システム	65
インストール手順	66
メールボックス ライセンス	66
ボイス ポート ライセンス	66
自動音声応答装置ライセンス	66
タスク リスト	67
IVR ライセンスの変更	67
次の作業	67
付録 A : ファイルの手動バックアップ	69
バックアップ ファイルの番号付け	69
前提条件	70
付録 B : ファイルの復元	71
付録 C : 言語のアップグレードの準備	73
特定ボイスメール ユーザの言語サポートの更新	73
システムの音声プロンプト言語の更新	73
トリガーのアプリケーション プロンプト言語の更新	74
カスタムの自動応答手順の更新	75
新しい言語サポートの確認	75



Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェア インストールの概要

このガイドでは、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールおよびアップグレードするための Cisco Unity Express コマンドライン インターフェイス (CLI) のコマンドセットとグラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) のオプションについて説明します。

『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』で説明されている管理タスクを実行する前に、本ガイド内のタスクと手順を使用します。



(注)

このガイドは、Cisco Unity Express のインストールまたはアップグレードに使用してください。シスコのルータおよびネットワーク モジュール、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Communications Manager Express ルータのインストールについては説明していません。このバージョンの Cisco Unity Express の最新情報については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- 「ライセンス システム」 (P.8)
- 「Cisco Unity Express 8.5 モジュールのサポート」 (P.8)
- 「新規ソフトウェア インストールのチェックリスト」 (P.9)
- 「Cisco Unity Express ソフトウェア アップグレードのタイプ」 (P.10)
- 「プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェアのイメージ」 (P.11)
- 「無停電電源装置の推奨」 (P.11)
- 「ソフトウェア ライセンスと工場設定の制限」 (P.11)
- 「その他の参照資料」 (P.12)

ライセンス システム

Cisco Unity Express 8.5 は、Cisco Software Licensing (CSL) システムをサポートします。CSL ライセンスでは、メールボックスと General Delivery Mailbox (GDM; 共用メールボックス) の両方がメールボックス ライセンスの数に含まれます。メールボックスのタイプは、設定時に決まります。また、コールエージェントは、これまでのようにライセンスを使って指定するのではなく、インストール後のプロセスの一部として起動中に設定するか、CLI または GUI を使用して設定できるようになりました。CLI または GUI を使用して設定した場合は、コール エージェントの設定が反映されるように、システムを再起動する必要があります。

CSL ライセンスの詳細については、本ガイドおよび『[Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』で説明しています。

Cisco Unity Express 8.5 モジュールのサポート

ここでは、Cisco Unity Express 8.5 モジュールのサポートについて説明します。説明する内容は次のとおりです。

- 「[SM-SRE-900-K9 のサポート](#)」 (P.8)
- 「[AIM2-CUE、NME-CUE、および SRE モジュールの違い](#)」 (P.8)
- 「[サポートされないレガシー モジュール](#)」 (P.9)
- 「[サポートされないレガシー モジュール](#)」 (P.9)

SM-SRE-900-K9 のサポート

Cisco Unity Express 8.5 では、SM-SRE-900-K9 Service Ready Engine (SRE; サービス レディ エンジン) モジュールのサポートが追加されています。このモジュールは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限りサポートされています。このモジュールのスクリプトとプロンプト用の容量、およびその他の仕様については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

通常、Cisco Unity Express アプリケーションは、これらのモジュールに工場ですべてプリインストールされています。ただし、このソフトウェアの再インストールが必要になる場合があります。詳細については、「[サービス レディ エンジン \(SRE\) モジュールへの Cisco Unity Express 8.5 のインストール](#)」 (P.31) を参照してください。

AIM2-CUE、NME-CUE、および SRE モジュールの違い

Cisco Unity Express 8.5 は、Advanced Integration Module (AIM2-CUE) および拡張ネットワーク モジュール (NME-CUE) でサポートされます。AIM2-CUE は、AIM-CUE に置き換わるモジュールですが、マニュアルに明記されていない限り、両モジュールのソフトウェア機能およびシステム容量はすべて同じです。ISM-SRE および SM-SRE モジュールは、Cisco サービス統合型ルータ ジェネレーション 2 ルータ プラットフォームでのみ使用できます。



(注)

AIM-CUE モジュールは、Cisco Unity Express 8.5 ではサポートされません。

Cisco Unity Express の機能は、次の例外を除いて、どのモジュールでも同じように動作します。

- 物理的な違い
 - AIM2-CUE は、最大 65 のボイス メールボックスと 14 時間のボイス メッセージを保存する 6 ポート モジュールです。
 - NME-CUE は、最大 275 のボイス メールボックスと 300 時間のボイス メッセージを保存する 24 ポート モジュールです。
 - ISM-SRE-300-K9 モジュールは、最大 100 のメールボックスと 60 時間のボイス メッセージを保存する 10 ポート モジュールです。このモジュールは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限りサポートされています。
 - SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 モジュールは、最大 500 のボイス メールボックスと 600 時間のボイス メッセージを保存する 32 ポートモジュールです。これらのモジュールは、Cisco 2900 シリーズおよび Cisco 3900 シリーズのルータに限りサポートされています。
- NME-CUE および SM-SREA で **trace** または **log** コマンドを使用すると、自動的にデータがディスクに保存されます。AIM2-CUE および ISM-SRE では、トレース データとログ データは、フラッシュ メモリに保存されません。データを AIM2-CUE および ISM-SRE のフラッシュ メモリに保存するための、**log trace buffer save** コマンドを使用できます。
- ハードウェア モジュールごとに、サポートするスクリプトおよびプロンプト用の容量が異なります。これらの容量については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

サポートされないレガシー モジュール

Cisco Unity Express 8.5 では、AIM-CUE、NM-CUE および NM-CUE-EC モジュールはサポートされません。

新規ソフトウェア インストールのチェックリスト

Cisco Unity Express の新規インストールでは、次の手順を実行する必要があります。

表 1 Cisco Unity Express の新規ソフトウェア インストールのタスク リスト

チェックリスト	チェック
1. Cisco Unity Express ソフトウェア ライセンスをアクティブ化します。『 Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions 』を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. Cisco Unity Express のインストールの準備としてシステムの前提条件を確認します。「 Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件 」(P.15) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
3. 「クリーン」インストールまたは以前のバージョンからのアップグレードを実行します。「 Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード 」(P.39) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. 「クリーン」インストールの場合は、「 Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェアのインストール 」(P.23) に記載されているように Cisco Unity Express の必須コンポーネントを設定します。以前のバージョンからアップグレードする場合は、「 言語の追加または削除 」(P.26) に記載されているオプションの手順を実行してください。	<input type="checkbox"/>
5. 他のコンポーネントと加入者を設定します。『 Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions 』を参照してください。	<input type="checkbox"/>

Cisco Unity Express ソフトウェア アップグレードのタイプ

Cisco Unity Express ソフトウェアのアップグレードには、3 種類の方法があります。プラットフォーム、アップグレード前のバージョン、既存の設定データやボイスメール データを消去するかどうかによって、選択する方法が決まります。

利用可能なアップグレード処理および全バージョンのリストについては、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

ソフトウェア アップグレードの概要

アップグレード前の Cisco Unity Express のバージョンとプラットフォームによって、異なるソフトウェア アップグレード方法を使用できます。Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレードには、次の方法がサポートされています。

- **software install upgrade** コマンドでオンライン インストーラを使用したアップグレード。具体的な手順については、『[既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)』(P.47) を参照してください。
- **software install clean** コマンドでオンライン インストーラを使用した「クリーン」インストールプロセスによるアップグレード。具体的な手順については、『[新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)』(P.41) を参照してください。
- ブートヘルパーを使用した「クリーン」インストール プロセスによるアップグレード。具体的な手順については、『[ブートヘルパーを使用した Cisco Unity Express イメージの再インストール](#)』(P.55) を参照してください。このアップグレード プロセスは主に、システムが正常に反応しない緊急時に使用することを推奨します。



注意

「クリーン」インストール プロセスを使用してアップグレードする場合、システム上の既存の設定ファイルは保持されません。システムで設定されているボイスメール、グリーティング、パスワードも失われます。

設定を保持するには、アップグレードを実行する前に既存の設定ファイルをバックアップし、アップグレード後にこれらを復元する必要があります。アップグレードの実行前に設定ファイルをバックアップしない場合、Cisco Unity Express を再設定する必要があります。

ソフトウェア アップグレードを計画する場合は、次の点を考慮してください。

- オンライン インストーラを使用してソフトウェアをアップグレードする場合、前のソフトウェアバージョンへのダウングレードはサポートされていません。
- Cisco Unity Express 7.1 よりも前のリリースからアップグレードする場合は、CSL 以前のライセンスから CSL ライセンスへの移行が必要です。詳細については、『[Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』を参照してください。



(注)

Cisco Unity Express 7.1 よりも前のバージョンでは、特定のコール エージェント、Cisco Unified Communications Manager または Cisco Unified Communications Manager Express に対してライセンスを購入していました。バージョン 7.1 以降では、ライセンスは両方のコール エージェントをカバーし、インストール プロセスの最中に特定のコール エージェントを選択します。

- システムで AIM-CUE モジュールを使用している場合は、ソフトウェアを Cisco Unity Express 8.5 にアップグレードする前に AIM2-CUE モジュールにアップグレードする必要があります。
- サポートするパーソナル メールボックスが少ないライセンスへのダウングレードはサポートされていません。サポートするメールボックスを減らすようにシステムを変更する場合、大きなシステムで以前のバックアップを復元することはできないので、新しいライセンスを購入し、新規インストールを実行する必要があります。

プラットフォームおよび Cisco IOS ソフトウェアのイメージ

Cisco Unity Express アプリケーションは、構造的に Cisco IOS ソフトウェアのコマンドと似たコマンドセットを使用します。しかし、Cisco Unity Express のコマンドが、Cisco IOS 設定に影響を与えることはありません。

Cisco Unity Express ハードウェア モジュールとプラットフォームでは、操作に Cisco IOS コマンドを使用します。

サポートされている Cisco Unity Express ソフトウェア イメージとハードウェア プラットフォームの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

無停電電源装置の推奨

Cisco Unity Express モジュールを収容するルータには、Uninterruptible Power Supply (UPS; 無停電電源装置) を接続することを強く推奨します。信頼性の高い UPS ユニットは継続的に電源を供給して、ルータおよび Cisco Unity Express モジュールの動作を維持します。シスコのプラットフォームごとに消費電力が異なるので、ユニットの容量と動作時間を考慮してください。ルータに Cisco Unity Express を正しくシャットダウンさせてからルータの電源を切るシグナリング メカニズムを搭載した UPS を使用するようしてください。

ルータに次の設定を加えると、UPS デバイス (aux 0 に接続) への自動切り替えがサポートされます。



(注) 次の設定で、*slot* は Cisco Unity Express モジュールのスロット番号です。

```
line aux 0
privilege level 15
modem Dialin
autocommand service-module service-engine slot/0 shutdown no-confirm
```

ソフトウェア ライセンスと工場設定の制限

工場設定のシステム制限は、購入したライセンスによって決まります。システムの制限およびライセンス情報については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

この製品には、OpenSSL ツールキット (<http://www.openssl.org>) の使用に向けて OpenSSL プロジェクトで開発されたソフトウェアが含まれています。

Cisco Unity Express オープン ソース ソフトウェア ライセンスの詳細については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/unity_exp/rel7_1/Licensing/COSI_Licences.html を
 参照してください。

その他の参照資料

ここでは、Cisco Unity Express に関するその他のリファレンスについて説明します。

Cisco Unity Express 関連資料

関連トピック	文書タイトル
Cisco Unity Express ソフトウェア ライセンスのアクティブ化	『 Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions 』
Cisco Unity Express (Cisco Unity Express ハードウェアのマニュアルへのリンクを含む)	『 Cisco Unity Express Documentation, By Version 』

Cisco IOS 関連文書

関連トピック	文書タイトル
Cisco IOS の設定	『 Cisco IOS Voice Configuration Library, Release 12.4T 』 『 Cisco IOS Voice Port Configuration Guide, Release 15.0 』 『 Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers, Release 15.0 』 『 Cisco IOS Debug Command Reference 』 『 Cisco IOS Voice Command Reference 』
Cisco IOS 音声トラブルシューティング情報	『 Cisco IOS Voice Troubleshooting and Monitoring Guide 』

MIB

MIB	MIB リンク
<ul style="list-style-type: none"> • CISCO-UNITY-EXPRESS-MIB • CISCO-VOICE-CONNECTIVITY-MIB • CISCO-VOICE-APPLICATIONS-OID-MIB • CISCO-PROCESS-MIB • SNMPv2-MIB • IF-MIB • IP-MIB • SYSAPPL-MIB 	<p>選択したプラットフォーム、Cisco IOS リリース、および機能セットに関する MIB を検索およびダウンロードするには、http://www.cisco.com/go/mibs にある MIB Locator を使用してください。</p>

RFC

RFC	タイトル
1869	<i>SMTP Service Extensions</i>
1893	<i>Enhanced Mail System Status Codes</i>
2045	<i>Multipurpose Internet Mail Extensions Part One: Format of Internet Message Bodies, RFC</i>
2421	<i>Voice Profile for Internet Mail - Version 2</i>
2821	<i>Simple Mail Transfer Protocol</i>
2833	<i>RTP Payloads for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals</i>
3261	<i>SIP: Session Initiation Protocol</i>
3501	<i>Internet Message Access Protocol - Version 4 rev1</i>
2327	<i>SDP: Session Description Protocol</i>
3263	<i>SIP: Session Initiation Protocol: Locating SIP Servers</i>
3264	<i>Offer/Answer Model With Session Description Protocol</i>
3265	<i>Session Initiation Protocol (SIP)-Specific Event Notification</i>
3515	<i>Session Initiation Protocol (SIP) Refer Method</i>
3842	<i>Message Summary and Message Waiting Indication Event Package for the Session Initiation Protocol (SIP)</i>
3891	<i>Session Initiation Protocol (SIP) "Replaces" Header</i>
3892	<i>Session Initiation Protocol (SIP) Referred-By Mechanism</i>

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テクニカル サポートを受ける ・ソフトウェアをダウンロードする ・セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける ・ツールおよびリソースへアクセスする <ul style="list-style-type: none"> - Product Alert の受信登録 - Field Notice の受信登録 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索 ・ Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する ・トレーニング リソースへアクセスする ・ TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/techsupport</p>



Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件

この章では、システムに Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールするための前提条件について説明します。次の項で構成されています。

- 「[Cisco Unified Communications Manager Express の前提条件](#)」(P.15)
- 「[Cisco Unified Communications Manager の前提条件](#)」(P.19)

Cisco Unity Express モジュールのハードウェア インストール マニュアルについては、『[Cisco Unity Express Documentation, By Version](#)』を参照してください。Cisco Unity Express ソフトウェア ライセンスのアクティブ化については、『[Software Activation for Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager Express の前提条件



(注) この項は、Cisco Unity Express 8.5 の新規インストールに適用されます。

Cisco Unity Express システムで Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) を使用している場合は、Cisco Unity Express を設定する前に、Cisco Unified CME をインストールする必要があります。Cisco Unified CME をインストールしなかった場合、またはインストールしない場合は、インストール担当者に、次の手順が完了しているかどうかを確認してください。

1. Cisco Unified CME のバージョンが Cisco Unity Express 8.5 と互換性があることを確認します。
『[Cisco Unity Express Compatibility Matrix](#)』を参照してください。
2. Cisco Unified CME および Cisco Unity Express のハードウェアをすべてインストールし、正常に機能していることを確認します。
 - a. 電話機が Cisco Unified CME ルータに登録されるように接続します。電話機と加入者を設定し、Cisco Unified CME データベースに保存します。Cisco Unity Express 初期化ウィザードでは、このデータを Cisco Unity Express データベースにコピーできます。Cisco Unity Express の CLI コマンドまたは GUI オプションを使用して、後で追加加入者と電話機を作成できます。

次のサンプル ephone-dn 設定と ephone 設定を使用して、電話機と加入者を手動で設定します。

```

ephone-dn 1 <---- ephone dn configuration for a user
  number 8004
  name User1
  call-forward busy 6900
  call-forward noan 6900 timeout 10
!
!
ephone-dn 20 <---- ephone dn configuration for a group
  number 8801
  name Salesgroup
  call-forward busy 6900
  call-forward noan 6900 timeout 10

ephone 1 <--- ephone configured for the ephone-dn configured above
  username "Salesgroup" password null
  mac-address 0009.B7F7.556A
  button 1:1 2:20 3:21 4:22 5:23

```

- b. 使用している Cisco Unity Express ハードウェア モジュールをサポートする Cisco IOS リリースで Cisco Unity Express ルータが設定されていることを確認します。これらのモジュールをサポートするために必要な最小 Cisco IOS リリースの詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。
- c. Cisco Unity Express ハードウェア モジュールの Enable LED が点灯していることを確認します。



(注) 「無停電電源装置の推奨」(P.11) を参照してください。

3. Cisco Unified CME ソフトウェアをインストールし、正しく機能していることを確認します。
Cisco Unified CME のバージョンによって、Cisco Unified CME グラフィカル ユーザ インターフェイスを使用して一部の設定を実行できます。Cisco Unified CME のバージョンで GUI がサポートされていない場合は、『[Cisco Unified Communications Manager Express Administrator Guide](#)』を参照してください。使用している Cisco Unified CME バージョンで GUI がサポートされている場合は、次の手順に進みます。
 - a. Cisco Unified CME 設定 Web ページ (<http://cisco-unified-cme-router-ipaddress/ccme.html>) に接続できることを確認します。
 - b. Cisco Unified CME ルータのフラッシュ メモリに、Cisco Unity Express GUI の機能を制御する次のファイルがあることを確認します。
 - CiscoLogo.gif
 - Delete.gif
 - Plus.gif
 - Tab.gif
 - admin_user.html
 - admin_user.js
 - dom.js
 - downarrow.gif
 - ephone_admin.html
 - logohome.gif

- normal_user.html
- normal_user.js
- sxiconad.gif
- telephony_service.html
- uparrow.gif
- xml-test.html
- xml.template

- c. Cisco Unified CME コンフィギュレーション モードで次のパスを設定します。

```
Router(config)# ip http path flash:
```

- d. **show running-config** コマンドで、パスを確認します。

- e. ルータと Cisco Unity Express モジュール間の IP 接続を設定します。モジュールには、内部 IP アドレスおよびデフォルトのゲートウェイ設定があります。ルータには、IP アドレス付きのサービスエンジン インターフェイスがあります。これはアンナンバードの場合があります。

設定で **ip unnumbered** コマンドを使用すると、Cisco Unity Express モジュールが FastEthernet0/0 など、特定ルータの出力ポートに関連付けられたネットワーク サブネット IP アドレスを使用できるようになります。この方法では、サービスエンジン インターフェイスへのスタティック ルートが必要です。Cisco Unity Express インターフェイスと関連付けられたルータ インターフェイスは、ルータとモジュール間の通信用に常に「アップ」状態である必要があります。

GUI にアクセスしてシステムを設定する必要があるため、Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスをコピーします。次の例で、10.3.6.128 は Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス、Service-Engine1/0 は Cisco Unity Express モジュールのホストとなるルータのスロットです。

```
interface FastEthernet0/0
  ip address 10.3.6.1 255.255.255.0
  .
  .
interface Integrated-Service-Engine1/0
  ip unnumbered FastEthernet0/0
  service-module ip address 10.3.6.128 255.255.255.0
  service-module ip default-gateway 10.3.6.1
  .
  .
ip route 10.3.6.128 255.255.255.255 Service-Engine1/0
```



- (注) ネットワークが、EtherSwitch モジュールと共に VLAN インターフェイスを使用している場合は、上述の例を使用して、両方の「FastEthernet0/0」を「VLAN1」に置き換えます。

上述の例は、NME-CUE に適用されます。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するためのコマンドは、Cisco Unity Express モジュールによって異なります。表 1 に、各モジュールで使用される異なるコマンドを示します。

表 1 Cisco Unity Express モジュールのインターフェイス コンフィギュレーション モード コマンド

Cisco Unity Express モジュール	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するためのコマンド
ISM-SRE-300-K9	<code>interface ism slot/unit</code>
SM-SRE-700-K9 SM-SRE-900-K9	<code>interface sm slot/0</code>
NME-CUE	<code>interface integrated-service-engine slot/unit</code>
AIM2-CUE	<code>interface internal-service-module slot/unit</code>

- f. SIP ダイアル ピアが、Cisco Unity Express モジュールを示すように設定されていることを確認します。つまり、G.711 u-law と SIP Notify for DTMF Relay が指定され、VAD がオフになります。この手順は、着信コールを Cisco Unity Express 8.5 に誘導するために必要です。次に設定例を示します。

```
dial-peer voice 6000 voip <----- SIP dial peer pointing to Cisco Unity Express
destination-pattern 6...
session protocol sipv2
dtmf-relay sip-notify
session target ipv4:10.3.6.128 <---- Cisco Unity Express IP address
codec g711ulaw
no vad
```

- g. ダイアル計画をサポートする適切な数の SIP ダイアル ピアを設定します。
- h. Cisco Unified CME Web 管理者のユーザ名とパスワードが、次の例のように設定されていることを確認します。

```
telephony-service
.
.
.
web admin system name admin password user1
```

または

```
web admin system name admin secret 5 encrypted-password
```

4. Cisco Unity Express と通信する FTP サーバがパッシブ FTP 要求をサポートしている必要があります。FTP サーバでこの機能を設定する方法については、FTP サーバのマニュアルを参照してください。
5. (オプション) Cisco Unified CME インターフェイスで加入者を作成しなかった場合は、すべての加入者、グループ、およびその内線番号のリストを作成して、多数の加入者と内線番号を設定するタスクを簡略化します。



- (注) ボイスメール メッセージを受け取る各加入者にプライマリ内線番号を指定します。Cisco Unity Express は E.164 番号の MWI を起動しません。

Cisco Unified Communications Manager の前提条件

Cisco Unity Express システムで Cisco Unified Communications Manager を使用している場合、Cisco Unity Express の設定を開始する前に、Cisco Unified Communications Manager をインストールする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager をインストールしなかった場合、またはインストールしない場合は、インストール担当者に、次の手順が完了しているかどうかを確認してください。

1. Cisco Unified Communications Manager のバージョンが Cisco Unity Express 8.5 と互換性があることを確認します。『[Cisco Unity Express Compatibility Matrix](#)』を参照してください。
2. (必須) Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unity Express のハードウェアをすべてインストールし、機能を確認します。モジュールのハードウェア インストール マニュアルについては、『[Cisco Unity Express Documentation, By Version](#)』を参照してください。
 - a. Cisco Unified Communications Manager サーバに登録するように電話機を接続します。
 - b. Cisco Unity Express ハードウェア モジュールの Enable LED が点灯していることを確認します。



(注) 「[無停電電源装置の推奨](#)」(P.11) を参照してください。

3. (必須) Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアをインストールし、機能を確認します。
 - a. Cisco Unified Communications Manager 設定 Web ページにアクセスできる必要があります。
 - b. ルータと Cisco Unity Express モジュール間の IP 接続を設定します。モジュールには、内部 IP アドレスおよびデフォルトのゲートウェイ設定があります。ルータには、IP アドレス付きのサービスエンジン インターフェイスがあります。これはアンナンバードの場合があります。

ip unnumbered コマンドを使用すると、Cisco Unity Express モジュールが、FastEthernet0/0 など、特定ルータの出力ポートに関連付けられたネットワーク サブネット IP アドレスを使用できるようになります。この方法では、サービスエンジン インターフェイスへのスタティック ルートが必要です。Cisco Unity Express インターフェイスと関連付けられたルータ インターフェイスは、ルータとモジュール間の通信用に常に「アップ」状態である必要があります。

GUI にアクセスしてシステムを設定する必要があるため、Cisco Unity Express モジュールの IP アドレスをコピーします。次の例で、10.3.6.128 は Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス、Service-Engine1/0 は Cisco Unity Express モジュールのホストとなるルータのスロットです。

```
interface FastEthernet0/0
  ip address 10.3.6.1 255.255.255.0
.
interface Service-Engine1/0
  ip unnumbered FastEthernet0/0
  service-module ip address 10.3.6.128 255.255.255.0
  service-module ip default-gateway 10.3.6.1
.
ip route 10.3.6.128 255.255.255.255 Service-Engine1/0
```



(注) ネットワークが、EtherSwitch モジュールと共に VLAN インターフェイスを使用している場合は、上述の例を使用して、両方の「FastEthernet0/0」を「VLAN1」に置き換えます。

上述の例は、NME-CUE に適用されます。インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するためのコマンドは、Cisco Unity Express モジュールによって異なります。表 2 に、各モジュールで使用されるさまざまなコマンドを示します。

表 2 Cisco Unity Express モジュールのインターフェイス コンフィギュレーション モード コマンド

Cisco Unity Express モジュール	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するためのコマンド
ISM-SRE-300-K9	<code>interface ism slot/unit</code>
SM-SRE-700-K9 SM-SRE-900-K9	<code>interface sm slot/0</code>
NME-CUE	<code>interface integrated-service-engine slot/unit</code>
AIM2-CUE	<code>interface internal-service-module slot/unit</code>

- c. Cisco Unified Communications Manager で、NME-CUE モジュールの場合は Cisco Unity Express システムに 24 CTI ポートを設定します。AIM2-CUE の場合は、Cisco Unified Communications Manager で 6 CTI ポートを設定します。ISM-SRE-300-K9 の場合は、Cisco Unified Communications Manager で 10 CTI ポートを設定します。SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 の場合は、32 CTI ポートを設定します。Cisco Unified Communications Manager オプションの [Device] > [Phones] > [Add new Phone] を使用します。これらのポートは、Cisco Unity Express アプリケーション（ボイスメール、自動応答、Administration via Telephone (AvT)）が通話を終了するために使用します。
- Cisco Unified Communications Manager で余分な CTI ポートを設定しないでください。設定すると、Cisco Unified Communications Manager のスケーラビリティに影響を与え、サポート可能な他のデバイス数が制限されます。
- d. [Device] > [CTI Route Point] オプションを使用して、Cisco Unified Communications Manager で少なくとも 2 つの Cisco Unified Communications Manager ルート ポイントを設定します。Cisco Unity Express ボイスメールアプリケーションと自動応答アプリケーションがそれぞれ 1 つのルート ポイントを使用します。Cisco Unity Express AvT を使用する予定の場合、Cisco Unified Communications Manager で 3 番目のルート ポイントを設定します。Cisco Unity Express のコールイン番号数と同じルート ポイントが必要です。



(注) Cisco Unified Communications Manager で余分なルート ポイントを設定しないでください。設定すると、Cisco Unified Communications Manager のスケーラビリティに影響を与え、Cisco Unified Communications Manager がサポート可能な他のデバイス数が制限されます。

- e. [User] > [Add new user] オプションを使用して、Cisco Unified Communications Manager JTAPI ユーザを作成します。[Device Association] オプションを使用して、CTI ポートおよびルート ポイントをこの JTAPI ユーザと関連付けます（JTAPI ユーザには Cisco Unity Express ボイス メールボックスは割り当てられません。これは、Cisco Unified Communications Manager と接続を確立するための Cisco Unity Express のプレースホルダです）。この JTAPI ユーザに対して [Enable CTI Application Use] チェックボックスがオンになっているか確認します。

- f. Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降のバージョンを使用している場合は、AXL サービスがアクティブになっていることを確認します。それには、Cisco Unified Communications Manager サービスアビリティ Web サイトにアクセスし、[Tools] > [Service Activation] をクリックします。Cisco AXL Web サービスを探します。
- g. 効率的な呼処理のため、JTAPI トラフィックを最優先するように Cisco Unity Express ルータ上のアクセス リストを設定します。次に例を示します。

```
class-map match-all jtapi
  match access-group 110
class-map match-all voice
  match access-group 100

policy-map jtapi
  class jtapi
    set dscp cs3
    bandwidth 20
  class voice
    set dscp af31
    priority 320
  class class-default
    fair-queue

interface Serial0/1
  ip address 192.168.10.0 255.255.255.0
  service-policy output jtapi
  clockrate 256000
  no cdp enable

access-list 100 permit udp host 10.3.6.128 any range 16383 32727
access-list 110 permit tcp host 10.3.6.128 any eq 2748
```

10.3.6.128 は、Cisco Unity Express を含むモジュールの IP アドレスです。

show policy-map interface コマンドからの出力は、マークされたパケット番号が増加していることを示します。次に例を示します。

```
Match: access-group 110
QoS Set
  dscp cs3
Packets marked 334 <-----This number should increase.
```

4. Cisco Unity Express と通信する FTP サーバがパッシブ FTP 要求をサポートしている必要があります。FTP サーバでこの機能を設定する方法については、FTP サーバのマニュアルを参照してください。
5. (オプション) Cisco Unified Communications Manager インターフェイスで加入者を作成しなかった場合は、すべての加入者、グループ、およびその内線番号のリストを作成して、多数の加入者と内線番号を設定するタスクを簡略化します。



Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェアのインストール

「Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件」(P.15) で説明した前提条件が整ったら、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールできます。この章では、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールする方法を説明します。また、以下の情報と手順を説明します。

- 「タスク リスト」(P.23)
- 「Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化」(P.24)
- 「言語の追加または削除」(P.26)

タスク リスト



(注)

Cisco Unity Express を注文すると、工場では Cisco Unity Express ソフトウェアと購入したライセンスがモジュールにインストールされます。予備モジュールも、ソフトウェアおよびライセンスがインストールされた状態で出荷されます。

Cisco Unity Express を新規インストールするには、次の手順を実行する必要があります。

表 1 Cisco Unity Express の新規インストール手順

チェックリスト	チェック
1. Cisco Unity Express 管理者のユーザ名とパスワードを作成し、DNS サーバと NTP サーバの IP アドレスを指定します。このユーザ名とパスワードは、初期化ウィザードにログインするときに必要です。『Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions』および GUI オンライン ヘルプを参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. モジュールとルータ間の IP アドレスを設定します。「Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化」(P.24) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
3. 言語を追加または削除します。「言語の追加または削除」(P.26) を参照してください。	<input type="checkbox"/>

表 1 Cisco Unity Express の新規インストール手順 (続き)

チェックリスト	チェック
<p>4. Cisco Unity Express ソフトウェアの設定を開始します。『Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions』および設定タスクの GUI オンライン ヘルプを参照してください。</p> <p>(注) CLI コマンドを使用して、初期化ウィザードで行われる設定作業を実行する場合 (設定スクリプトを使用する場合など) は、Cisco Unity Express EXEC モードで web skipinitwizard コマンドを使用して、初期化ウィザードを省略できます。このコマンドにより、初期化ウィザードはオフになります。Cisco Unity Express モジュールを再イメージ化する場合を除いて、ウィザードをオンにしたり再起動したりすることはできません。</p>	<input type="checkbox"/>

Cisco Unity Express ソフトウェアへの IP 接続のアクティブ化

Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager システムと Cisco Unity Express モジュールの間の IP 通信リンクをアクティブ化します。

前提条件

ソフトウェアをアクティブにするには、次の情報が必要です。

- Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータ上の Cisco Unity Express モジュールのスロット番号とユニット番号
- Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネット マスク、または アンナンプード インターフェイス タイプと番号
- Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
- Cisco Unity Express ルータのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じ IP アドレスである必要があります。

手順の概要

1. 次のいずれかを選択します。

ISM-SRE-300-K9 の場合、次を入力します。

```
interface ism slot/unit
```

SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 の場合、次を入力します。

```
interface sm slot/0
```

NME-CUE の場合、次を入力します。

```
interface integrated-service-engine slot/unit
```

AIM2-CUE の場合、次を入力します。

```
interface internal-service-module slot/unit
```

2. **ip address** *router-ip-addr subnet-mask*
または
ip unnumbered *interface-type number*
ip route *prefix-mask interface-type interface-number*
3. **service-module ip address** *cue-side-ip-addr subnet-mask*
4. **service-module ip default-gateway** *gw-ip-addr*
5. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	次のいずれかを選択します。	
	interface ism <i>slot/unit</i> 例： Router(config)# interface ism 0/1	ISM-SRE-300-K9 でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
	interface sm <i>slot/0</i> 例： Router(config)# interface sm 1/0	SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 で、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
	interface integrated-service-engine <i>slot/unit</i> 例： Router(config)# interface integrated-service-engine 2/0	NME-CUE でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	interface internal-service-module <i>slot/unit</i> 例： Router(config)# interface internal-service-module 0/1	AIM2-CUE でインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
	次のいずれかを選択します。	
	ip address <i>router-ipaddr subnet-mask</i> 例： Router(config-if)# ip address 172.16.231.195 255.255.0.0 または Router(config-if)# ip unnumbered <i>interface-type number</i> Router(config-if)# ip route <i>prefix-mask interface-type interface-number</i> 例： Router(config-if)# ip unnumbered Service-Engine 1/0 Router(config-if)# _ip route 1.100.50.44 255.255.255.255 ServiceEngine 1/0	Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネット マスクを指定します。 Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータのインターフェイスの <i>type</i> (タイプ) と <i>number</i> (番号) を指定します。 ip unnumbered コマンドを指定する場合は、 ip route コマンドも指定する必要があります。

■ 言語の追加または削除

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<pre>service-module ip address cue-side-ipaddr subnet-mask</pre> <p>例: Router(config)# service-module ip address 172.16.231.190 255.255.0.0</p>	Cisco Unity Express モジュールインターフェイスの IP アドレスを指定します。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
ステップ 4	<pre>service-module ip default-gateway gw-ipaddr</pre> <p>例: Router(config)# service-module ip default-gateway 172.16.231.195</p>	Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例: Router(config-if)# exit</p>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

例

次の例は、IP 接続をアクティブにする手順を示しています。

```
Router(config)# interface Integrated-Service-Engine 1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.9 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip address 10.0.0.10 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip default-gateway 10.0.100.10
Router(config-if)# exit
```

言語の追加または削除

追加言語のインストールと言語の削除は、オンライン モードだけで実行する必要があります。

Cisco Unity Express ソフトウェアのフルインストールを実行する場合を除いて、ブートヘルパーを使用した言語の追加や削除はできません。その手順については、「[Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェアのインストール](#)」(P.23) を参照してください。

追加言語のインストール

前提条件

言語をインストールするには、次の情報が必要です。

- FTP サーバの URL

制約事項

- AIM2-CUE モジュール ライセンスでは、同時にインストールできる言語は 2 つに制限されています。

- NME-CUE、ISM-SRE-300-K9、SM-SRE-700-K9、または SM-SRE-900-K9 モジュール ライセンスでは、同時にインストールできる言語は 5 つに制限されています。



(注) 「同じバージョンでの Cisco Unity Express ライセンスのアップグレードまたはダウングレード」 (P.65) を参照してください。

手順の概要

1. `config t`
2. `software download server url ftp://server-ip-address[/dir] [username username password password]`
3. `exit`
4. `software install add cue-vm-langpack.plat.ver.pkg` (言語パッケージ ファイル)
5. 上記コマンドで表示されるリストから言語を選択します。
上述のファイル名のプレースホルダのキーは、表 2 にあります。

表 2 ダウンロード ファイル可変キー

プレースホルダ	説明
<i>plat</i>	イメージを作成するプラットフォーム。オプションは次のとおりです。 nmx : AIM2-CUE および NME-CUE モジュールの場合 sme : ISM-SRE および SM-SRE モジュールの場合 ise : Integrated Services Engine (ISE) モジュールの場合
<i>ver</i>	Cisco Unity Express リリース パッケージのバージョン。8.5.1、8.5.2 などです。
<i>lang</i>	言語コード。en_US、fr_FR、it_IT などです。

手順の詳細

- ステップ 1 `config t` を使用して、コンフィギュレーション モードを開始します。
- ステップ 2 `software download server url ftp://server-ip-address[/dir][username username password password]` と入力します。
 - *server-ip-address* は、FTP サーバの URL です。
 - *username* は、FTP サーバ上の有効なユーザの名前です。
 - *password* は、FTP サーバにアクセスできるユーザ名とパスワードです。
- ステップ 3 `exit` と入力して、コンフィギュレーション モードを終了します。
- ステップ 4 `software install add cue-vm-langpack.plat.ver.pkg` と入力します。
- ステップ 5 上記コマンドで表示されるリストから言語を選択します。

例

次の例は、追加言語の選択方法を示しています。

```
Language add-ons found on the system (1):
Installed SKU Name (version)
-----
* ENU CUE Voicemail US English (8.5.1.0)
Maximum 2 language add-ons allowed for this platform.
You may install 4 more language(s) from the following list:
Language Installation Menu:
# Selected  SKU      Language Name (version)
-----
 1          ITA      CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
 2          ESP      CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
 3          ENU      CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
 4          FRA      CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
 5          ESO      CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
 6          ESM      CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
 7          ARA      CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
 8          NLD      CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
 9          SVE      CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10          NOR      CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11          FRC      CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12          PTG      CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13          TUR      CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14          HUN      CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15          ENG      CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16          DEU      CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17          DAN      CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18          PTB      CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19          KOR      CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20          CHS      CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21          JPN      CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22          RUS      CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)
-----
Available commands are:
# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection
```

```

Enter Command:3
Language Installation Menu:
# Selected   SKU           Language Name (version)
-----
1           ITA           CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2           ESP           CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3           ENU           CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4           FRA           CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5           ESO           CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6           ESM           CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7           ARA           CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8           NLD           CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9           SVE           CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10          NOR           CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11          FRC           CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12          PTG           CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13          TUR           CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14          HUN           CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15          ENG           CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16          DEU           CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17          DAN           CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18          PTB           CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19          KOR           CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20          CHS           CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21          JPN           CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22          RUS           CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)
-----
Available commands are:
# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection
Enter Command:X ui_install scripts executed successfully.
Starting payload download

```

言語の削除

言語を削除するには、次の例に示すように、EXEC モードで **software uninstall** コマンドを入力します。

```

se-10-50-40-125> software uninstall ?
<cr>
  uid-list      List of UIDs of Subsystems to be uninstalled
se-10-50-40-125> software uninstall

Add-On Uninstallation Menu:
# Selected Add-On SSID Add-On Name (version)
-----
1 3f968fd0-6598-48e2-be1c-4af6c2e02e02 CUE Voicemail German (8.5.1.0)
2 27e5e2ab-1622-4c02-8a0a-cfad0d932148 CUE Voicemail US English (8.5.1.0)
-----
Available commands are:
r # - remove Add On for given #
i # - more information about Add On for given #
c # - clear Add On selection for given #
x - Done with Add On selection
Enter Command:r 1
Add-On Uninstallation Menu:

```

```
# Selected Add-On SSID Add-On Name (version)
-----
1 * 3f968fd0-6598-48e2-be1c-4af6c2e02e02 CUE Voicemail German (8.5.1.0)
2 27e5e2ab-1622-4c02-8a0a-cfad0d932148 CUE Voicemail US English (8.5.1.0)
-----

Available commands are:
r # - remove Add On for given #
i # - more information about Add On for given #
c # - clear Add On selection for given #
x - Done with Add On selection
Enter Command:x
Are you sure? [y/n]: y
There are add-on subsystems on uninstall list.
Running Script Processor for ui_uninstall
ui_uninstall scripts executed successfully.
Generating the add-on-uninstall work order :
Validating installed manifests .....
.complete.
:::/sw/installed/manifest/de_DE_lang_manifest.sig:remove
:::/usr/wfavvid/Prompts/system/de_DE:remove
:::/usr/wfavvid/Prompts/user/de_DE:remove
:::/usr/wfavvid/Grammars/system/de:remove
:::/usr/wfavvid/Grammars/system/de_DE:remove
:::/usr/wfavvid/i18n/com/cisco/prompt/impl/PromptGenerators_de_DE.properties:remove
:::/usr/wfavvid/i18n/com/cisco/grammar/impl/DigitRecognitionStrings_de_DE.
properties:remove
:::/usr/tomcat/webapps/voicemail/prompts/DEU:remove
Starting to uninstall:
```

次の作業

Cisco Unity Express モジュールへの接続の設定または言語の変更が終了したら、初期化ウィザードを実行して、*Cisco Unity Express* データベースの設定を開始します。



(注)

CLI コマンドを使用して、初期化ウィザードで実行される設定タスクを実行するには（設定スクリプトの使用など）、Cisco Unity Express EXEC モードで **web skipinitwizard** コマンドを使用して、初期化ウィザードを省略できます。このコマンドにより、初期化ウィザードはオフになります。

Cisco Unity Express モジュールを再イメージ化する場合を除いて、ウィザードをオンにしたり再起動したりすることはできません。



サービス レディ エンジン (SRE) モジュールへの Cisco Unity Express 8.5 のインストール

この章では、Cisco Unity Express ソフトウェアをサービス レディ エンジン モジュールにインストールする手順を説明します。また、以下の情報と手順を説明します。

- 「概要」 (P.31)
- 「タスク リスト」 (P.32)
- 「Cisco Unity Express モジュールへの IP 接続のアクティブ化」 (P.32)
- 「SRE モジュールへの Cisco Unity Express アプリケーションのインストール」 (P.34)
- 「インストール ステータスのモニタリング」 (P.36)
- 「SRE モジュールからの Cisco Unity Express アプリケーションのアンインストール」 (P.37)
- 「次の作業」 (P.38)

概要

Cisco Unity Express 8.5 は、以下の サービス レディ エンジン (SRE) モジュールをサポートします。

- ISM-SRE-300-K9
- SM-SRE-700-K9
- SM-SRE-900-K9

ほとんどの場合、出荷時に Cisco Unity Express が SRE モジュールにプリインストールされています。この章では、アプリケーションの再インストールが必要な場合に、これらのモジュールに Cisco Unity Express をインストールする方法を説明します。

Cisco SRE サービス モジュールの詳細については、『[Cisco SRE Service Module Configuration and Installation Guide](#)』を参照してください。

「[Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの前提条件](#)」 (P.15) で説明した前提条件が整ったら、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールできます。

タスク リスト



(注)

Cisco Unity Express を注文すると、工場 で Cisco Unity Express ソフトウェア と購入したライセンスがモジュールにインストールされます。予備モジュールも、ソフトウェアおよびライセンスがインストールされた状態で出荷されます。

新しくインストールした Cisco Unity Express を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

表 1 Cisco Unity Express の新規インストール手順

チェックリスト	チェック
1. サービス レディ エンジン モジュールとルータの間の IP アドレス指定を設定します。「Cisco Unity Express モジュールへの IP 接続のアクティブ化」(P.32) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. サービス レディ エンジン モジュールに Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールします。「SRE モジュールへの Cisco Unity Express アプリケーションのインストール」(P.34) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
3. Cisco Unity Express 管理者のユーザ名とパスワードを作成し、DNS サーバと NTP サーバの IP アドレスを指定します。このユーザ名とパスワードは、初期化ウィザードにログインするときに必要です。『Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions』および GUI オンライン ヘルプを参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. Cisco Unity Express ソフトウェアの設定を開始します。『Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions』および設定タスクの GUI オンライン ヘルプを参照してください。	<input type="checkbox"/>
(注) CLI コマンドを使用して、初期化ウィザードで行われる設定作業を実行する場合 (設定スクリプトを使用する場合など) は、Cisco Unity Express EXEC モードで web skipinitwizard コマンドを使用して、初期化ウィザードを省略できます。このコマンドにより、初期化ウィザードはオフになります。Cisco Unity Express モジュールを再イメージ化する場合を除いて、ウィザードをオンにしたり再起動したりすることはできません。	

Cisco Unity Express モジュールへの IP 接続のアクティブ化

ソフトウェアをインストールする前に、システムと Cisco Unity Express モジュールの間の IP 通信リンクをアクティブ化します。

前提条件

Cisco Unity Express モジュールへのリンクをアクティブ化するには、以下の情報が必要です。

- Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータ上の Cisco Unity Express モジュールのスロット番号とユニット番号。
- Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネット マスク、または アンナンバード インターフェイス タイプと番号。

- Cisco Unity Express モジュールの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
- Cisco Unity Express ルータのデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じ IP アドレスである必要があります。

手順の概要

1. **interface ism slot/unit**
または
interface sm slot/0
2. **ip address router-ip-addr subnet-mask**
または
ip unnumbered type number
3. **service-module ip address cue-side-ip-addr subnet-mask**
4. **service-module ip default-gateway gw-ip-addr**
5. **exit**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	次のいずれかを選択します。 <code>interface ism slot/unit</code> または <code>interface sm slot/0</code> 例 : Router(config)# interface ism 0/1	Integrated Service Module (ISM; 総合サービスモジュール) SRE モジュールで、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。 Service Module (SM; サービス モジュール) SRE モジュールで、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	次のいずれかを選択します。 <code>ip address router-ipaddr subnet-mask</code> 例 : Router(config-if)# ip address 172.16.231.195 255.255.0.0 または Router(config-if)# <code>ip unnumbered type number</code> 例 : Router(config-if)# ip unnumbered FastEthernet 0/0	Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスとサブネット マスクを指定します。 Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータのインターフェイスの <code>type</code> (タイプ) と <code>number</code> (番号) を指定します。

■ SRE モジュールへの Cisco Unity Express アプリケーションのインストール

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<pre>service-module ip address cue-side-ipaddr subnet-mask</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# service-module ip address 172.16.231.190 255.255.0.0</pre>	Cisco Unity Express モジュール インターフェイスの IP アドレスを指定します。この IP アドレスは、Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータと同じサブネット上にある必要があります。
ステップ 4	<pre>service-module ip default-gateway gw-ipaddr</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# service-module ip default-gateway 172.16.231.195</pre>	Cisco Unity Express のホストとなる Cisco IOS ルータの IP アドレスを指定します。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <p>例:</p> <pre>Router(config-if)# exit</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

例

次の例は、IP 接続をアクティブにする手順を示しています。

```
Router(config)# interface sm 1/0
Router(config-if)# ip address 10.0.0.9 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip address 10.0.0.10 255.0.0.0
Router(config-if)# service-module ip default-gateway 10.0.100.10
Router(config-if)# exit
```

SRE モジュールへの Cisco Unity Express アプリケーションのインストール

この手順を使用して、SRE モジュールに Cisco Unity Express をインストールします。

手順の概要

1. `service-module ism slot/unit install url url [script script-name] [argument argument] [force]`
または
`service-module sm slot/0 install url url [script script-name] [argument argument] [force]`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><code>service-module ism slot/unit install url url [script script-name] [argument argument] [force]</code></p> <p>または</p> <p><code>service-module sm slot/0 install url url [script script-name] [argument argument] [force]</code></p> <p>例 : Router(config)# service-module ism 0/0 install url ftp://username:password@128.107.146.189/dir/cue-vm-k9.sme.7.1.2.pkg script cue-vm-k9.sme.7.1.2.sre</p>	<p>SRE へのアプリケーション ソフトウェアのインストール プロセスを開始します。</p> <p>argument オプションを使用して、インストールする言語を指定できます。argument オプションと共に force オプションを選択すると、プロンプトの表示なしにインストールが進行します。</p> <p>オプションの argument および force キーワードを指定しないと、インストールする言語 (複数選択可能) を選択するためのプロンプトが表示されます。</p>

service-module ism install または **service-module sm install** コマンドを入力すると、システムによってアプリケーションがインストールされます。

次は、インストール プロセスの表示の例です。

```
c2911#service-module ism 0/0 install url
ftp://username:password@10.50.10.25/dir/cue-vm-k9.sme.8.5.1.pkg
Proceed with installation? [no]: yes
Loading 7.1.2/cue-vm-k9.sme.7.1.2.pkg.install.sre !
[OK - 22272/4096 bytes]
```

Following languages are available for installation.

#	Selected	SKU	Language Name (version)
1		ITA	CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2		ESP	CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3		ENU	CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4		FRA	CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5		ESO	CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6		ESM	CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7		ARA	CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8		NLD	CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9		SVE	CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10		NOR	CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11		FRC	CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12		PTG	CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13		TUR	CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14		HUN	CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15		ENG	CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16		DEU	CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17		DAN	CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18		PTB	CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19		KOR	CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20		CHS	CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21		JPN	CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22		RUS	CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)

You can install up to 5 language(s) on this platform.

■ インストール ステータスのモニタリング

```
Please select the language(s) you want to install by entering the language number(s)
Languages can be entered as comma separated or space separated list
Example: 1,3 would select 'Italian' and 'US English'
```

```
Enter languages:3
Following languages will be installed on the system:
CUE Voicemail US English
Do you want to continue with the selected options?(y/n):y input string: lang=no=1,CUE
Voicemail US English
```

```
c2911#
[Resuming connection 2 to 10.50.70.1 ... ]
```

```
Initializing memory. Please wait...
Memory initialization OK. Continue...
```

```
DDR Memory 0512 MB detected
Genuine Intel(R) processor          1.06GHz
BIOS SM 2.5, BIOS Build date: 06/30/2009 System now booting...
```

```
Now booting from primary boot loader....
```

```
Please enter '***' to change boot configuration:
システムによってインストールプロセスが開始されます。システムのインストールが完了すると、次
が表示されます。
```

```
IMPORTANT::
IMPORTANT:: Welcome to Cisco Systems Service Engine
IMPORTANT:: post installation configuration tool.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: This is a one time process which will guide
IMPORTANT:: you through initial setup of your Service Engine.
IMPORTANT:: Once run, this process will have configured
IMPORTANT:: the system for your location.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you do not wish to continue, the system will be halted
IMPORTANT:: so it can be safely removed from the router.
IMPORTANT::
```

```
Do you wish to start configuration now (y,n)?
```

Y を入力して、初期プロセスを開始します。

インストール ステータスのモニタリング

インストールプロセスの最中に、Cisco Unity Express アプリケーションのインストール ステータスをモニタできます。

手順の概要

1. **service-module ism *slot/unit* status**
または
service-module sm *slot/0* status

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>service-module ism slot/unit status</pre> <p>または</p> <pre>service-module sm slot/0 status</pre> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# service-module ism 2/0 status</pre>	統合サービス エンジンのステータスをモニタします。

インストールの最中に、**service-module ism slot/unit status** コマンドを入力すると、次のような出力が表示されます。

```
c2911#service-module ism 0/0 status
Service Module is Cisco ISM0/0
Service Module supports session via TTY line 131
Service Module is in Steady state
Service Module heartbeat-reset is enabled
Getting status from the Service Module, please wait..
Cisco Unity Express 7.1.2
CUE Running on ISM
No install/uninstall in progress
```

SRE モジュールからの Cisco Unity Express アプリケーションのアンインストール

SRE モジュールから Cisco Unity Express アプリケーションをアンインストールするには、以下のステップを実行します。このプロセスによって、ディスクやコンパクト フラッシュの内容が消去されますが、ライセンスはモジュールに残ります。

手順の概要

1. **service-module ism slot/unit uninstall**
または
service-module sm slot/0 uninstall

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>service-module ism slot/unit uninstall</pre> <p>または</p> <pre>service-module sm slot/0 uninstall</pre> <p>例 :</p> <pre>Router(config)# service-module ism 2/0 uninstall</pre>	モジュールから Cisco Unity Express アプリケーションをアンインストールします。ディスクやコンパクト フラッシュの内容は消去されますが、ライセンスはモジュールに残ります。

次の作業

Cisco Unity Express モジュールへの接続の設定または言語の変更が終了したら、初期化ウィザードを実行して、Cisco Unity Express データベースの設定を開始します。詳細については、GUI オンラインヘルプを参照してください。



(注)

CLI コマンドを使用して、初期化ウィザードで実行される設定タスクを実行するには（設定スクリプトの使用など）、Cisco Unity Express EXEC モードで **web skipinitwizard** コマンドを使用して、初期化ウィザードを省略できます。このコマンドにより、初期化ウィザードはオフになります。

Cisco Unity Express モジュールを再イメージ化する場合を除いて、ウィザードをオンにしたり再起動したりすることはできません。



Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード

この章では、Cisco Unity Express 8.5 ソフトウェアへのアップグレード手順について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- 「アップグレードの準備」 (P.39)
- 「アップグレード手順の概要」 (P.40)
- 「前提条件」 (P.40)
- 「新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード」 (P.41)
- 「既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード」 (P.47)
- 「次の作業」 (P.53)

アップグレードの準備

アップグレードの前に、アップグレード先の Cisco Unity Express のバージョンが以下をサポートするかどうかを確認する必要があります。

- 現在の Cisco Unity Express ハードウェア モジュール
- 現在使用中のコール制御アプリケーションのバージョン：
 - Cisco Unified Communications Manager Express (CUCME)、または
 - Cisco Unified Communications Manager (CUCM) および Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony (SRST)

現在の設定が Cisco Unity Express 8.5 でサポートされない場合、新しい Cisco Unity Express ハードウェア モジュールへの移行かコール制御のバージョンのアップグレードのいずれか、またはその両方が必要になります。詳細については、『[Cisco Unity Express Guide to Hardware Migration and Software Upgrades](#)』または『[Cisco Unity Express Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

アップグレード手順の概要

ここでは、アップグレードの開始前に知っておく必要がある重要な情報について説明します。



注意

Cisco Unity Express 8.5 ライセンスは、CSL ライセンス システムに基づいています。CSL ライセンスの詳細については、このガイドと『[Software Activation of Cisco Unity Express 7.1](#)』に記載されています。

次の条件に応じて 2 つのアップグレード手順のどちらかを使用します。

- 手順の前に設定をバックアップして、後で復元するかどうか
- 使用しているプラットフォーム

クリーン インストールによる Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード

これは、既存の設定データやボイスメール データを消去し、ディスクの再パーティショニングを行い、ディスクに新しいファイルをすべてロードすることで、ディスクを「クリーン」にするクリーンインストールです。クリーン インストールを開始する前に、設定ファイルとデータ ファイルをバックアップし、インストール後、それらのファイルを復元する必要があります。

この手順では、**software install clean** コマンドを使用します。詳細については、「[新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)」(P.41) を参照してください。

このプロセスは、Cisco Unity Express バージョン 3.0.x 以降からアップグレードする場合に使用します。

ソフトウェア アップグレードによる Cisco Unity Express のアップグレード

この手順では、既存の設定やデータは消去されません。ディスクの内容は消去されないため、現在の設定ファイルやデータ ファイルをバックアップする必要はありません。現在のインストールがアップグレードされます。

この手順では、**software install upgrade** コマンドを使用します。詳細については、「[既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)」(P.47) を参照してください。

このプロセスは、Cisco Unity Express バージョン 3.1.x 以降からアップグレードする場合に使用します。

前提条件

- 次の情報が必要です。
 - FTP サーバの IP アドレス
 - FTP サーバのユーザ名
 - FTP サーバのパスワード
 - ソフトウェア パッケージ名
- 言語をインストールする場合は、『[Cisco Unity Express Compatibility Matrix](#)』でインストール可能な言語のリストを参照してください。
- FTP サーバが設定済みでアクティブになっていることを確認します。
- FTP サーバから Cisco Unity Express ネットワーク モジュールに ping コマンドを送信できることを確認します。

- Cisco Unity Express が DNS を使用するように設定されている場合は、ホスト名を使用して FTP サーバを識別します。Cisco Unity Express が DNS を使用するように設定されていない場合は、FTP サーバの IP アドレスを使用します。

新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード

ここでは、Cisco Unity Express 8.5 への「クリーン」アップグレード手順について説明します。この手順では、既存の設定データとボイスメール データは消去されるので、まずデータをバックアップし、ソフトウェアのインストール後に復元する必要があります。



(注) また、システム データをバックアップしてソフトウェアのインストール後に復元せずに、アップグレードする方法もあります。詳細については、「[既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)」(P.47) を参照してください。



(注) Cisco Unity Express 7.0 または 7.1 から 8.5 にアップグレードする場合、アップグレード前のメンテナンス リリース バージョンによっては、アップグレードが失敗し、「Error: Required Subsystem ID e2497725-368d-48b5-a7d5-7f87d889a608 was not found either on Installed or Candidate list.」というエラー メッセージを受信することがあります。詳細については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.0](#)』の CSCtd56585 の説明を参照してください。

タスク リスト

Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレードには、次の一連のタスクが必要です。

表 1 クリーン インストール方法を使用した Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレードのタスク リスト

チェックリスト	チェック
1. データ ファイルと設定ファイルをバックアップします。「 付録 A : ファイルの手動バックアップ 」(P.69) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. 『 Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions 』の説明に従って、新しい CSL ライセンス ファイルをダウンロードしてインストールします。	<input type="checkbox"/>
3. ソフトウェア イメージ ファイルをダウンロードおよびインストールします。「 新しいソフトウェア イメージのダウンロードとインストール 」(P.41) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. データ ファイルと設定ファイルを復元します。「 付録 B : ファイルの復元 」(P.71) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
5. システムを再起動します。	<input type="checkbox"/>

新しいソフトウェア イメージのダウンロードとインストール

次の手順を使用して、新しい Cisco Unity Express ソフトウェア イメージをインストールします。

**注意**

データ ファイルと設定ファイルをバックアップしていない場合は、インストールを開始する前にバックアップしてください。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。新しいイメージをインストールする前に、ディスクの内容はすべて消去されます。

手順の概要

1. ログインし Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
2. [Download Software] リンクをクリックします。
3. Cisco Unity Express リリースを選択します。
4. Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。zip ファイルが 1 つと、言語ごとに 1 つの言語パッケージ ファイルがあります。
5. zip ファイルから 5 つのコア ファイルを抽出します。
6. 抽出したファイルと言語パッケージ ファイルを FTP サーバにコピーします。
7. (オプション) **software download clean** コマンドを入力し、FTP サーバから新しいソフトウェアをダウンロードします。



(注) **software download clean** コマンドはオプションですが、インストールのステージングに便利です。このコマンドにより、ソフトウェア ファイルがハードディスクに保存されます。その後のインストールまたはアップグレード中の時間を節約できます。

8. (手順 4 で必要) **y** を入力し、インストールを続行します。
9. 言語選択メニューから言語のバージョンを選択します。
10. 言語選択メニューの選択を終了したら **x** を入力します。
11. **software download status** コマンドを入力し、ソフトウェアがダウンロードされたことを確認します。
12. **software install clean** コマンドを入力し、新しいソフトウェアをインストールします。
インストールの完了後、システムは自動的にリロードされます。
13. **y** を入力して、初期設定を開始します。
14. フラッシュ メモリに保存した設定を復元する場合は **y** を、バックアップを使用して設定を復元する場合は **n** を入力します。
15. Cisco Unity Express 管理者 ID を入力します。これは、Cisco Unity Express GUI にログインするためのユーザ名です。

手順の詳細

- ステップ 1** ログインし、Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
- ステップ 2** [Download Software] リンクをクリックします。
- ステップ 3** Cisco Unity Express リリースを選択します。
- ステップ 4** 適切な Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。
 - **cue-vm-k9.plat.ver.zip** (アプリケーション パッケージ ファイル)

- **cue-vm-lang-langpack.plat.ver.prt1** (言語パッケージファイル)

上述のファイル名のプレースホルダのキーは、表 2 (P.27) にあります。

ステップ 5 zip ファイルから、コア ファイルを抽出します。

AIM2-CUE および NME-CUE の場合 :

- cue-installer.nmx.8.5.x
- cue-vm-k9.nmx.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.nmx.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.nmx.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.nmx.8.5.x.prt1

ISM-SRE-300-K9、SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 モジュールの場合 :

- cue-installer.sme.8.5.x
- cue-vm-k9.sme.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.sme.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.sme.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.sme.8.5.x.prt1

Cisco 1861 にプリインストールされた ISE-CUE モジュールの場合 :

- cue-installer.ise.8.5.x
- cue-vm-k9.ise.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.ise.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.ise.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.ise.8.5.x.prt1

ステップ 6 コア ファイルおよび使用しているハードウェア モジュール用の言語パッケージ ファイルを FTP サーバにコピーします。

ステップ 7 (オプション) **software download clean** コマンドを入力し、FTP サーバから新しいソフトウェアをダウンロードします。

```
se-172-16-0-0# software download clean url ftp://ftp_server_ip_address/cue-vm-k9.nmx.pkg
username username password password
```

または、FTP サーバが設定されている場合は、次のように入力します。

```
se-172-16-0-0# software download clean cue-vm-k9.nmx.pkg
```



(注) FTP サーバがコンフィギュレーション モードで設定された場合、FTP パラメータを使用する必要はありません。FTP サーバを設定するには、『[Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions](#)』の **software download server** コマンドを参照してください。

ステップ 8 (手順 4 で必要) **y** を入力し、ダウンロードを続行します。

```
WARNING:: This command will download the necessary software to
WARNING:: complete a clean install. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue? [n] y
```

ステップ 9 言語選択メニューから言語のバージョンを選択します。



(注) 前のバージョンを実行していたシステムで、システム デフォルトとして設定されていた言語を選択します。アップグレードの一環として言語サポートを変更するには、追加の準備が必要です。たとえば、システム デフォルトとは異なるユーザ、音声プロンプト、トリガーおよびカスタム スクリプトが定義されている場合があります。これらが正しく更新されていないと、他の言語で定義されたユーザ用の音声プロンプトが機能しない場合があります。詳細については、「[付録 C：言語のアップグレードの準備](#)」(P.73) を参照してください。

#	Selected	SKU	Language Name (version)
1		ITA	CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2		ESP	CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3		ENU	CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4		FRA	CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5		ESO	CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6		ESM	CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7		ARA	CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8		NLD	CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9		SVE	CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10		NOR	CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11		FRC	CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12		PTG	CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13		TUR	CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14		HUN	CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15		ENG	CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16		DEU	CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17		DAN	CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18		PTB	CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19		KOR	CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20		CHS	CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21		JPN	CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22		RUS	CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)

Available commands are:

```
# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection
```

>12

ステップ 10 言語選択メニューで、選択した項目に「*」が表示されます。メニューを使用して、言語に関する情報を追加、削除、または取得します。終了したら **x** を入力します。次の例では、**Italian** と **Danish** が選択されています。

#	Selected	SKU	Language Name (version)
1		ITA	CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2		ESP	CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3		ENU	CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4		FRA	CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5		ESO	CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6		ESM	CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7		ARA	CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8		NLD	CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9		SVE	CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10		NOR	CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11		FRC	CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12		PTG	CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13		TUR	CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14		HUN	CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15		ENG	CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16		DEU	CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17		DAN	CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18		PTB	CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19		KOR	CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20		CHS	CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21		JPN	CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22		RUS	CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)

Available commands are:

```
# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection
```

>x

この時点で、新しいソフトウェアが FTP サーバからダウンロードされます。



(注) ソフトウェアのダウンロード時、ユーザの入力を求める他のプロンプトは表示されません。ソフトウェア パッケージが、FTP サーバから Cisco Unity Express モジュールにダウンロードされます。

ステップ 11 software download status コマンドを入力して、ダウンロードの状態をチェックします。

```
se-172-16-0-0# software download status
Download request in progress.
downloading file : cue-vm-k9.nmx.pkg
bytes downloaded : 18612224
se-172-16-0-0#
```

```
se-172-16-0-0# software download status
Download request completed successfully.
se-172-16-0-0#
```



(注) **show software directory download** コマンドを入力して、ダウンロードされたファイルを表示できます。

ステップ 12 ソフトウェアのダウンロード後、**software install clean** コマンドを入力して、新しいソフトウェアをインストールします。

**注意**

この手順で、ディスクは空になります。この手順後、すべての設定とボイスメッセージは失われます。バックアップを実行したことを確認してください。まだ実行していない場合は、この手順を中止して、バックアップを実行してください。「付録 A：ファイルの手動バックアップ」(P.69)を参照してください。

**(注)**

se-172-16-0-0# **software install clean cue-vm-k9.nmx.8.5.1.pkg**

ダウンロードセクションにパッケージが見つからない場合、設定済みの FTP サーバからダウンロードされます。

**(注)**

FTP サーバを設定するには、『*Cisco Unity Express Command Reference for 3.0 and Later Versions*』の **software download server** コマンドを参照してください。

この時点で、新しいソフトウェアがシステムにインストールされ、システムが再起動されます。

ステップ 13 y を入力して、初期設定を開始します。

```
IMPORTANT::
IMPORTANT::      Welcome to Cisco Systems Service Engine
IMPORTANT::      post installation configuration tool.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: This is a one time process which will guide
IMPORTANT:: you through initial setup of your Service Engine.
IMPORTANT:: Once run, this process will have configured
IMPORTANT:: the system for your location.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you do not wish to continue, the system will be halted
IMPORTANT:: so it can be safely removed from the router.
IMPORTANT::
```

Do you wish to start configuration now (y,n)? **y**

**(注)**

上記のプロンプトに対して何も応答しなかった場合は、2 分後に Cisco Unity Express によって、NTP サーバ、タイムゾーン、およびコールエージェントモードのデフォルト値を使用してシステムが自動的に設定されます。

ステップ 14 応答として y または n を入力します。次の出力を参照して、必要な設定を確認してください。**(注)**

新規インストールの場合、またはフラッシュが消去された場合は、この出力は表示されません。

```
IMPORTANT::
IMPORTANT:: A Cisco Unity Express configuration has been found in flash.
IMPORTANT:: You can choose to restore this configuration into the
IMPORTANT:: current image.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: A stored configuration contains some of the data from a
IMPORTANT:: previous installation, but not as much as a backup. For
IMPORTANT:: example: voice messages, user passwords, user PINs, and
IMPORTANT:: auto attendant scripts are included in a backup, but are
IMPORTANT:: not saved with the configuration.
IMPORTANT::
```

```

IMPORTANT:: If you are recovering from a disaster and do not have a
IMPORTANT:: backup, you can restore the saved configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you are going to restore a backup from a previous
IMPORTANT:: installation, you should not restore the saved configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you choose not to restore the saved configuration, it
IMPORTANT:: will be erased from flash.
IMPORTANT::

```

```

Would you like to restore the saved configuration? (y,n)

```

**注意**

n を入力すると、設定は削除され、ホスト名、DNS の場所、NTP サーバ、タイムゾーンを設定するよう求められます。

ステップ 15 Cisco Unity Express 管理者 ID を入力します。これは、Cisco Unity Express GUI にログインするためのユーザ名です。

```

IMPORTANT::
IMPORTANT:: Administrator Account Creation
IMPORTANT::
IMPORTANT:: Create an administrator account. With this account,
IMPORTANT:: you can log in to the Cisco Unity Express GUI and
IMPORTANT:: run the initialization wizard.
IMPORTANT::

```

```

Enter administrator user ID:
(user ID): Admin
Enter password for admin:
(password): *****
Confirm password for admin by reentering it:
(password): *****

```

```

SYSTEM ONLINE
se-172-16-0-0>

```

既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード

ここでは、既存の Cisco Unity Express にファイルを追加するだけでファイルをアップグレードする手順について説明します。この手順を使用すると、ソフトウェアのインストール前にシステム データをバックアップして、後で復元することなく、ソフトウェアのバージョンをアップグレードできます。このタイプのアップグレードを使用できるかどうかは、アップグレード前のバージョンによって決まります。この方法がサポートするバージョンの組み合わせを確認するには、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

**(注)**

選択した Cisco Unity Express 7.0.x および 7.1.x リリースから Cisco Unity Express 8.5 にアップグレードする際に、追加のタスクの実行が必要になることがあります。『[Release Notes for Cisco Unity Express 7.0](#)』および『[Release Notes for Cisco Unity Express 7.1](#)』の CSCtd56585 についての説明を参照してください。

タスク リスト

この方法で Cisco Unity Express をアップグレードする場合、次のタスクに従ってアップグレードイメージをダウンロードおよびインストールします。

表 2 ソフトウェア インストール アップグレードを使用して Cisco Unity Express をアップグレードするためのタスク リスト

チェックリスト	チェック
1. (推奨) データ ファイルと設定ファイルをバックアップします。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. 『 <i>Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions</i> 』の説明に従って、新しい CSL ライセンス ファイルをダウンロードしてインストールします。	<input type="checkbox"/>
3. ソフトウェア イメージ ファイルをダウンロードおよびインストールします。「アップグレードイメージのダウンロードとインストール」(P.48) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. データ ファイルと設定ファイルを復元します (必要な場合)。「付録 B : ファイルの復元」(P.71) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
5. システムを再起動します。	<input type="checkbox"/>

この手順を使用して、アップグレードイメージをダウンロードおよびインストールします。



(注)

アップグレードを開始する前に、データ ファイルと設定ファイルをバックアップしておくことを推奨します。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。



(注)

言語の選択を変更するには、「言語の追加または削除」(P.26) を参照してください。

アップグレード イメージのダウンロードとインストール

手順の概要

1. ログインし、Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
2. [Download Software] リンクをクリックします。
3. Cisco Unity Express リリースを選択します。
4. 適切な Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。
5. zip ファイルからコア ファイルを抽出します。
6. ファイルを FTP サーバにコピーします。
7. (オプション) **software download upgrade** コマンドを入力して、新しいソフトウェアをダウンロードします。



(注)

software download upgrade コマンドはオプションですが、インストールのステージングに便利です。このコマンドにより、ソフトウェア ファイルがハードディスクに保存されます。その後のインストールまたはアップグレード中の時間を節約できます。

8. (手順 4 で必要) **y** を入力し、ダウンロードを続行します。
9. (オプション) **software download status** コマンドを入力して、ダウンロードを確認します。
10. **software install upgrade** コマンドを入力し、新しいソフトウェアをインストールします。
11. **y** を入力してアップグレードをインストールするか、**n** を入力してインストール手順を停止します。
アップグレードの完了後、システムは自動的にリロードされます。
12. **show software versions** コマンドを入力して、アップグレードを確認します。

手順の詳細

-
- ステップ 1** ログインし、Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
- ステップ 2** [Download Software] リンクをクリックします。
- ステップ 3** Cisco Unity Express リリースを選択します。
- ステップ 4** 適切な Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。
- **cue-vm-k9.plat.ver.zip** (アプリケーション パッケージ ファイル)
 - **cue-vm-lang-langpack.plat.ver.prt1** (言語パッケージ ファイル)
- 上述のファイル名のプレースホルダのキーは、表 2 (P.27) にあります。以下のファイル名も参照してください。
- AIM2-CUE および NME-CUE の場合 :**
- cue-installer.nmx.8.5.x
 - cue-vm-k9.nmx.8.5.x.pkg
 - cue-vm-full-k9.nmx.8.5.x.prt1
 - cue-vm-installer-k9.nmx.8.5.x.prt1
 - cue-vm-langpack.nmx.8.5.x.prt1
- ISM-SRE-300-K9、SM-SRE-700-K9 および SM-SRE-900-K9 モジュールの場合 :**
- cue-installer.sme.8.5.x
 - cue-vm-k9.sme.8.5.x.pkg
 - cue-vm-full-k9.sme.8.5.x.prt1
 - cue-vm-installer-k9.sme.8.5.x.prt1
 - cue-vm-langpack.sme.8.5.x.prt1
- Cisco 1861 にプリインストールされた ISE-CUE モジュールの場合 :**
- cue-installer.ise.8.5.x
 - cue-vm-k9.ise.8.5.x.pkg
 - cue-vm-full-k9.ise.8.5.x.prt1
 - cue-vm-installer-k9.ise.8.5.x.prt1
 - cue-vm-langpack.ise.8.5.x.prt1
- ステップ 5** コア ファイルと言語パッケージ ファイルを FTP サーバにコピーします。



(注) 最初にダウンロードせずにファイルをインストールするには、コマンド **software install upgrade url ftp://ftp-server-ip-address/cue-vm-k9.plat.ver.8.5.x.pkg username username password password** を使用します。

ステップ 6 (オプション) **software download upgrade** コマンドを入力し、FTP サーバからソフトウェアをダウンロードします。

```
se-172-16-0-0# software download upgrade url ftp://ftp-server-ip-address/cue-vm-k9.nmx.pkg
```



(注) この例では、デフォルトの匿名 FTP ユーザを使用します。

または、FTP サーバが設定されている場合は、次のように入力します。

```
se-172-16-0-0# software download upgrade cue-vm-k9.nmx.pkg
```



(注) FTP サーバがコンフィギュレーション モードで設定された場合、FTP パラメータを使用する必要はありません。

ステップ 7 (手順 4 で必要) **y** を入力し、ダウンロードを開始します。

```
WARNING:: This command will download the necessary software to
WARNING:: complete an upgrade. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue? [n] y
Downloading software install upgrade cue-vm-k9.nmx.8.5.1.pkg
Bytes downloaded : 63648
```

```
Validating package signature ... done
Validating installed manifests .....complete.
```



(注) アップグレードソフトウェアのダウンロード時、ユーザの入力を求める他のプロンプトは表示されません。ソフトウェアパッケージが、FTP サーバから Cisco Unity Express ネットワークモジュールにダウンロードされます。

ステップ 8 **software download status** コマンドを入力して、ダウンロードの状態をチェックします。

```
se-172-16-0-0# software download status
Download request in progress.
downloading file : cue-vm-k9.nmx.8.5.1.pkg bytes downloaded : 18612224
se-172-16-0-0#
```

```
se-172-16-0-0# software download status
Download request completed successfully.
se-172-16-0-0#
```



(注) **show software directory download** コマンドを入力して、ダウンロードされたファイルを表示します。

ステップ 9 ダウンロードが完了したら、**software install upgrade** コマンドを入力して、新しいソフトウェアをインストールします。



(注) この例では、デフォルトの匿名 FTP ユーザを使用します。

```
se-172-16-0-0# software install upgrade cue-vm-k9.nmx.8.5.1.pkg
```

この例では、ダウンロードしたばかりのパッケージを使用して、ソフトウェアがアップグレードされます。ダウンロードされたディレクトリにパッケージが見つからない場合、設定済みの FTP サーバからダウンロードされます。



(注) 最初にダウンロードせずにパッケージをインストールするには、コマンド `software install upgrade url ftp://ftp_server_ip_address/software install upgrade cue-vm-k9.nmx.pkg` を使用します。

ステップ 10 `y` を入力して、アップグレードを開始します。



注意 アップグレードでは、ディスクの内容すべてが置き換えられることはありません。アップグレードに必要なファイルだけが置き換えられます。ソフトウェアのインストール前にバックアップを実行することを推奨します。



(注) Cisco Unity Express ソフトウェアのアップグレード時、言語の選択は求められません。設定された言語がそのまま使用されます。

```
WARNING:: This command will install the necessary software to
WARNING:: complete an upgrade. It is recommended that a backup be done
WARNING:: before installing software.
```

```
Would you like to continue? [n] y
```

アップグレードの完了後、システムはリロードされます。

ステップ 11 `show software version` コマンドを使用して、アップグレードを確認します。

```
se-172-16-0-0# show software version
Cisco Unity Express version (8.5.1)
```

Components:

```
- CUE Voicemail Language Support version 8.5.1.0
```

```
se-172-16-0-0#
```

すべての詳細を確認するには、`show software version detail` コマンドを使用します。

```
se-172-16-0-0# sh soft ver detail
Cisco Unity Express version (8.5.1)
```

Applications:

```
Name: Installer (8.5.1)
Desc: Installer application
     id: a0fb9f0a-fa5c-4b21-a64c-0cb9d6379573
Type: (installer)
```

```
Name: Thirdparty (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Thirdparty Code
     id: a3442277-7890-4782-9e6b-9d19efc1e0d8
Type: (application)
```

```
Name: Bootloader (Primary) (2.1.14)
Desc: Service Engine Bootloader
     id: 13b08c00-19f7-4b81-97c7-f1d7fb7a8fd5
Type: (bootloader)
```

■ 既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード

Name: Infrastructure (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Infrastructure
id: a36e1bel-ce8a-4f53-ace7-1844262aa0b9
Type: (application)

Name: Global (8.5.1)
Desc: Global manifest
id: edceaf0b-a890-4045-9086-5452fac85eba
Type: (application)

Name: Service Engine license (2.1.2.0)
Desc: License for the Service Engine
id: dlba3d34-06c2-4461-8600-a0c244ef8457
Type: (license)

Name: Auto Attendant (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Telephony Infrastructure
id: e3db91b0-f47d-460c-ad22-65001a5d45a9
Type: (application)

Name: Voice Mail (8.5.1.0)
Desc: Voicemail application
id: 8e7823e2-0e92-4470-8860-653246345f9d
Type: (application)

Name: Bootloader (Secondary) (2.1.15.14)
Desc: Service Engine Bootloader
id: 9d7b26fb-21b2-416e-8b65-425c2f8da5d8
Type: (bootloader)

Name: Core (8.5.1.0)
Desc: Service Engine OS Core
id: 430f25f9-0fed-48a4-b362-823937138501
Type: (application)

Name: GPL Infrastructure (8.5.1.0)
Desc: Service Engine GPL Infrastructure
id: 9f112eb1-6f58-4dd4-8faa-8530467af3b9
Type: (application)

Components:

Name: CUE Voicemail Language Support (8.5.1.0)
Desc: Languages global pack
id: e2e81cc6-39b5-47e1-9f83-b83c897fc50c
Type: (plug-in)

Name: CUE Voicemail US English (8.5.1.0)
Desc: English language pack
id: 27e5e2ab-1622-4c02-8a0a-cfad0d932148
Type: (plug-in)

Name: CUE Voicemail UK English (8.5.1.0)
Desc: British English language pack
id: fa803d25-9c89-4171-a14c-ec12d6ed6b8c
Type: (plug-in)

se-172-16-0-0#

次の作業

1. 必要に応じて、データ ファイルと設定ファイルを復元します。「付録 B : ファイルの復元」(P.71) を参照してください。この手順は、「既存のインストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード」(P.47) のアップグレードプロセスを使用した場合は必要ありません。



- (注) システムのバックアップ ファイルがなく、データを復元できない場合は、初期化ウィザードを実行します。GUI オンライン ヘルプを参照してください。



- (注) CLI コマンドを使用して、初期化ウィザードで実行される設定タスクを実行するには (設定スクリプトの使用など)、EXEC モードで **web skipinitwizard** コマンドを使用して、初期化ウィザードを省略します。
このコマンドにより、初期化ウィザードはオフになります。Cisco Unity Express モジュールを再イメージ化しない限り、再起動できません。

2. 新しいシステム機能を設定します。『*Cisco Unity Express VoiceMail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions*』、および『*Cisco Unity Express Interactive Voice Response CLI Administrator Guide*』を参照してください。

■ 次の作業



ブートヘルパーを使用した Cisco Unity Express イメージの再インストール

この章では、ブートヘルパーを使用して、Cisco Unity Express ソフトウェアをインストールする手順を説明します。



(注)

ブートヘルパーの方法は、システムが正常に反応しない緊急時、または新規インストール時に使用します。ヘルパーは、ライセンスおよびフル イメージのインストールだけをサポートします。ブートヘルパー モードは、アップグレードや言語だけのインストールはサポートしていません。

これはクリーン インストールです。ディスクに新しいファイルをロードする前に、既存の設定データとボイスメール データをすべて消去して、ディスクを空にします。クリーン インストールを開始する前に、設定ファイルとデータ ファイルをバックアップし、インストールの実行後、それらのファイルを復元する必要があります。FTP サーバと TFTP サーバの両方が必要です。



(注)

「[新規インストールでの Cisco Unity Express 8.5 へのアップグレード](#)」(P.41) で説明したクリーン インストール手順に失敗した場合を除いて、ブートヘルパーは使用しないでください。

この章は、次の項で構成されています。

- 「[前提条件](#)」(P.55)
- 「[タスク リスト](#)」(P.56)
- 「[ソフトウェア ファイルのダウンロード](#)」(P.56)
- 「[設定パラメータ値の入力](#)」(P.58)
- 「[ソフトウェア イメージファイルのインストール](#)」(P.59)

前提条件

- TFTP サーバと FTP サーバが設定され、アクティブになっていることを確認します。
- TFTP サーバと FTP サーバから Cisco Unity Express モジュールに ping コマンドを送信できることを確認します。
- サポートされる言語のリストについては、『[Cisco Unity Express Compatibility Matrix](#)』を参照してください。

タスク リスト

ソフトウェア イメージのインストールでは、次の一連のタスクを実行します。

表 1 ブートヘルパーを使用した Cisco Unity Express イメージの再インストールのタスク リスト

チェックリスト	チェック
1. データ ファイルと設定ファイルをバックアップします。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
2. ソフトウェア イメージ ファイルをダウンロードします。「ソフトウェア ファイルのダウンロード」(P.56) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
3. ブートヘルパーの設定パラメータ値を入力します。「設定パラメータ値の入力」(P.58) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
4. ソフトウェア ファイルをインストールします。「ソフトウェア イメージ ファイルのインストール」(P.59) を参照してください。	<input type="checkbox"/>
5. データ ファイルと設定ファイルを復元します。「付録 B : ファイルの復元」(P.71) を参照してください。	<input type="checkbox"/>

ソフトウェア ファイルのダウンロード

Cisco Unity Express ソフトウェア インストールの最初のタスクは、ソフトウェア ファイルのダウンロードです。上述の前提条件を見直して、すべてのサーバとモジュールがアクティブで使用できるようになっていることを確認します。

手順の概要

1. ログインし、Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
2. [Download Software] リンクをクリックします。
3. Cisco Unity Express リリースを選択します。
4. Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。zip ファイルが 1 つと、言語ごとに 1 つの言語パッケージ ファイルがあります。
5. zip ファイルから 5 つのコア ファイルを抽出します。
6. 抽出したファイルと言語パッケージ ファイルを FTP サーバにコピーします。
7. cue-installer.<platform>.<ver> ファイルを TFTP サーバにコピーします。
8. 他のソフトウェア ファイルを FTP サーバにコピーします。

手順の詳細

-
- ステップ 1** ログインし、Cisco Unity Express サポート ページ (<http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5520/index.html>) に移動します。
- ステップ 2** [Download Software] リンクをクリックします。
- ステップ 3** Cisco Unity Express リリースを選択します。
- ステップ 4** 適切な Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードします。

- **cue-vm-k9.plat.ver.zip** (アプリケーション パッケージ ファイル)
- **cue-vm-lang-langpack.plat.ver.prt1** (言語パッケージ ファイル)

上述のファイル名のプレースホルダのキーは、表 2 にあります。

ステップ 5 zip ファイルから、コア ファイルを抽出します。

AIM2-CUE および NME-CUE の場合 :

- cue-installer.nmx.8.5.x
- cue-vm-k9.nmx.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.nmx.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.nmx.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.nmx.8.5.x.prt1

ISM-SRE-300-K9、SM-SRE-700-K9、および SM-SRE-900-K9 モジュールの場合 :

- cue-installer.sme.8.5.x
- cue-vm-k9.sme.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.sme.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.sme.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.sme.8.5.x.prt1

Cisco 1861 にプリインストールされた ISE-CUE モジュールの場合 :

- cue-installer.ise.8.5.x
- cue-vm-k9.ise.8.5.x.pkg
- cue-vm-full-k9.ise.8.5.x.prt1
- cue-vm-installer-k9.ise.8.5.x.prt1
- cue-vm-langpack.ise.8.5.x.prt1

ステップ 6 使用しているハードウェア モジュール用のインストーラ ファイルを TFTP サーバにコピーします。

- AIM2-CUE および NME-CUE : **cue-installer.nmx.8.5.x**
- ISM-SRE-300-K9、SM-SRE-700-K9、および SM-SRE-900-K9 : **cue-installer.sme.8.5.x**
- Cisco 1861 上の ISE-CUE の場合 : **cue-installer.ise.8.5.x**

ステップ 7 他のソフトウェア ファイルを FTP サーバにコピーします。

次の作業

- データ ファイルと設定ファイルをバックアップします。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。
- ファイルのバックアップ後、パラメータ値を設定します。「設定パラメータ値の入力」(P.58) を参照してください。

設定パラメータ値の入力

一部のパラメータを Cisco Unity Express サーバで設定して、Cisco Unity Express ソフトウェア ファイルをダウンロードできるようにする必要があります。

手順の概要

1. **reload**
2. ******* と入力して、ブートヘルパー モードを開始します。
3. **config**
4. 次のパラメータの値を入力します。
 - ネットワーク モジュールの IP アドレス
 - サブネット マスク
 - TFTP サーバのアドレス
 - ゲートウェイ ルータのアドレス
 - イーサネット インターフェイスは **internal**
 - デフォルトのヘルパー イメージは **cue-installer.plat.ver**
 - デフォルトのブート設定
 - デフォルトのブートローダは **primary**
5. ブートヘルパーを使用して、モジュールを起動します。

手順の詳細

-
- ステップ 1 **reload** と入力して、システムを再起動します。
 - ステップ 2 ******* と入力して、ブートヘルパー モードを開始します。
 - ステップ 3 **config** と入力してコンフィギュレーション モードを開始します。
 - ステップ 4 次のパラメータの値を入力します。
 - ネットワーク モジュールの IP アドレス
 - サブネット マスク
 - TFTP サーバのアドレス
 - ゲートウェイ ルータのアドレス
 - イーサネット インターフェイス : **internal**
 - デフォルトのヘルパー イメージ : **cue-installer.plat.ver**
 - デフォルトのブート : **disk**
 - デフォルトのローダ : **primary**



(注) インストール時はデフォルトとしてプライマリ ブートローダを使用することを推奨します。

- ステップ 5 **boot helper** と入力して、インストールを開始します。これで、インストーラがロードされます。
-

次の作業

ソフトウェア ファイルをインストールします。「ソフトウェア イメージ ファイルのインストール」(P.59) を参照してください。

ソフトウェア イメージ ファイルのインストール

ブートヘルパーのインストーラ（上述の [ステップ 5](#) から）が表示されたら、ソフトウェア イメージ ファイルをインストールする準備ができました。

前提条件

ソフトウェア イメージ ファイルをインストールするには、次の情報が必要です。

- TFTP サーバの IP アドレス
- FTP サーバの IP アドレス
- FTP サーバのユーザ名
- FTP サーバのパスワード
- ソフトウェア パッケージ名

手順の概要

ヘルパー インストーラのオプションのリストから、次のことを行います。

1. インストール メニューから最初のオプション、[Install Software] を選択します。
2. パッケージ名、FTP サーバのアドレス、ユーザ名、パスワードを入力します。
3. 言語選択メニューから必要な言語を選択します。
4. 言語選択メニューの選択を終了したら **x** を入力します。
5. インストール後設定メニューの初期設定を開始する場合は、**y** を入力します。
6. フラッシュ メモリに保存した設定を復元する場合は **y** を、バックアップを使用して設定を復元する場合は **n** を入力します。
7. Cisco Unity Express 管理者 ID を入力します。これは、Cisco Unity Express GUI にログインするためのユーザ名です。
8. **show software versions** コマンドを入力して、インストールを確認します。

手順の詳細

ステップ 1 インストール メニューから最初のオプション、[Install Software] を選択します。

```
Welcome to Cisco Systems Service Engine Helper Software
Please select from the following
1      Install software
2      Reload module
(Type '?' at any time for help)
Choice: 1
```

ステップ 2 パッケージ名、FTP サーバのアドレス、ユーザ名、パスワードを入力します。

ソフトウェア イメージ ファイルのインストール

```

Package name: cue-vm-k9.plat.ver.pkg
Server url: ftp://10.37.162.120/
Username: cue
Password: *****
Software installation will clear disk contents
Continue [y/n]? y

```

**注意**

この手順で、ディスクは空になります。この手順後、すべての設定とボイス メッセージは失われます。将来のアップグレードとインストールに備えて、バックアップを実行したことを確認してください。まだ実行していない場合は、この手順を中止して、バックアップを実行してください。「付録 A : ファイルの手動バックアップ」(P.69) を参照してください。

ステップ 3 言語選択メニューから言語のバージョンを選択します。

Language Selection Menu:

```

# Selected  SKU      Language Name (version)
-----
1          ITA      CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2          ESP      CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3          ENU      CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4          FRA      CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5          ESO      CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6          ESM      CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7          ARA      CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8          NLD      CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9          SVE      CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10         NOR      CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11         FRC      CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12         PTG      CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13         TUR      CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14         HUN      CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15         ENG      CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16         DEU      CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17         DAN      CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18         PTB      CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19         KOR      CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20         CHS      CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21         JPN      CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22         RUS      CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)
-----

```

Available commands are:

```

# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection

```

>6

**(注)**

前のバージョンを実行していたシステムで、システム デフォルトとして設定されていた言語を選択します。アップグレードの一環として言語サポートを変更する場合は、追加の準備が必要です。たとえば、システム デフォルトとは異なるユーザ、音声プロンプト、トリガーおよびカスタム スクリプトが定義されている場合があります。これらが正しく更新されていないと、他の言語で定義されたユーザ用の音声プロンプトが機能しない場合があります。「付録 C : 言語のアップグレードの準備」(P.73) を参照してください。

- ステップ 4** 言語選択メニューで、選択した項目に「*」が表示されます。メニューを使用して、言語に関する情報を追加、削除、または取得します。終了したら **x** を入力します。次の例では、**Italian** と **Mexican Spanish** が選択されています。

Language Selection Menu:

#	Selected	SKU	Language Name (version)
1		ITA	CUE Voicemail Italian (8.5.0.15)
2		ESP	CUE Voicemail European Spanish (8.5.0.15)
3		ENU	CUE Voicemail US English (8.5.0.15)
4		FRA	CUE Voicemail European French (8.5.0.15)
5		ESO	CUE Voicemail Latin American Spanish (8.5.0.15)
6		ESM	CUE Voicemail Mexican Spanish (8.5.0.15)
7		ARA	CUE Voicemail Arabic (8.5.0.15)
8		NLD	CUE Voicemail Dutch (8.5.0.15)
9		SVE	CUE Voicemail Swedish (8.5.0.15)
10		NOR	CUE Voicemail Norwegian (8.5.0.15)
11		FRC	CUE Voicemail Canadian French (8.5.0.15)
12		PTG	CUE Voicemail Portuguese (8.5.0.15)
13		TUR	CUE Voicemail Turkish (8.5.0.15)
14		HUN	CUE Voicemail Hungarian (8.5.0.15)
15		ENG	CUE Voicemail UK English (8.5.0.15)
16		DEU	CUE Voicemail German (8.5.0.15)
17		DAN	CUE Voicemail Danish (8.5.0.15)
18		PTB	CUE Voicemail Brazilian Portuguese (8.5.0.15)
19		KOR	CUE Voicemail Korean (8.5.0.15)
20		CHS	CUE Voicemail Mandarin Chinese (8.5.0.15)
21		JPN	CUE Voicemail Japanese (8.5.0.15)
22		RUS	CUE Voicemail Russian (8.5.0.15)

Available commands are:

```
# - enter the number for the language to select one
r # - remove the language for given #
i # - more information about the language for given #
x - Done with language selection
```

>x



(注) ソフトウェアがインストールされ、システムが再起動します。

- ステップ 5** システムのリロード後、**y** を入力して、初期設定を開始します。

```
IMPORTANT::
IMPORTANT::      Welcome to Cisco Systems Service Engine
IMPORTANT::      post installation configuration tool.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: This is a one time process which will guide
IMPORTANT:: you through initial setup of your Service Engine.
IMPORTANT:: Once run, this process will have configured
IMPORTANT:: the system for your location.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you do not wish to continue, the system will be halted
IMPORTANT:: so it can be safely removed from the router.
IMPORTANT::

Do you wish to start configuration now (y,n)? y
```

- ステップ 6** 応答として **y** または **n** を入力します。次の出力を参照して、必要な設定を確認してください。

```
IMPORTANT::
```

```

IMPORTANT:: A Cisco Unity Express configuration has been found in flash.
IMPORTANT:: You can choose to restore this configuration into the
IMPORTANT:: current image.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: A stored configuration contains some of the data from a
IMPORTANT:: previous installation, but not as much as a backup. For
IMPORTANT:: example: voice messages, user passwords, user PINs, and
IMPORTANT:: auto attendant scripts are included in a backup, but are
IMPORTANT:: not saved with the configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you are recovering from a disaster and do not have a
IMPORTANT:: backup, you can restore the saved configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you are going to restore a backup from a previous
IMPORTANT:: installation, you should not restore the saved configuration.
IMPORTANT::
IMPORTANT:: If you choose not to restore the saved configuration, it
IMPORTANT:: will be erased from flash.
IMPORTANT::

```

Would you like to restore the saved configuration? (y,n)

ステップ 7 Cisco Unity Express 管理者 ID を入力します。これは、Cisco Unity Express GUI にログインするためのユーザ名です。

```

IMPORTANT::
IMPORTANT:: Administrator Account Creation
IMPORTANT::
IMPORTANT:: Create an administrator account. With this account,
IMPORTANT:: you can log in to the Cisco Unity Express GUI and
IMPORTANT:: run the initialization wizard.
IMPORTANT::

```

```

Enter administrator user ID:
  (user ID): Admin
Enter password for admin:
  (password): *****
Confirm password for admin by reentering it:
  (password): *****

```

se-172-16-0-0>

ステップ 8 **show software version** コマンドを使用して、アップグレードを確認します。

```

se-172-16-0-0# show software version
Cisco Unity Express version (8.5.1)

Components:

- CUE Voicemail Language Support version 8.5.1.0

```

se-172-16-0-0#

すべての詳細を確認するには、**show software version detail** コマンドを使用します。

```

se-172-16-0-0# sh soft ver detail
Cisco Unity Express version (8.5.1)

Applications:

Name: Installer (8.5.1)
Desc: Installer application
  id: a0fb9f0a-fa5c-4b21-a64c-0cb9d6379573
Type: (installer)

```

Name: Thirdparty (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Thirdparty Code
id: a3442277-7890-4782-9e6b-9d19efc1e0d8
Type: (application)

Name: Bootloader (Primary) (2.1.14)
Desc: Service Engine Bootloader
id: 13b08c00-19f7-4b81-97c7-f1d7fb7a8fd5
Type: (bootloader)

Name: Infrastructure (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Infrastructure
id: a36e1be1-ce8a-4f53-ace7-1844262aa0b9
Type: (application)

Name: Global (8.5.1)
Desc: Global manifest
id: edceaf0b-a890-4045-9086-5452fac85eba
Type: (application)

Name: Service Engine license (2.1.2.0)
Desc: License for the Service Engine
id: d1ba3d34-06c2-4461-8600-a0c244ef8457
Type: (license)

Name: Auto Attendant (8.5.1.0)
Desc: Service Engine Telephony Infrastructure
id: e3db91b0-f47d-460c-ad22-65001a5d45a9
Type: (application)

Name: Voice Mail (8.5.1.0)
Desc: Voicemail application
id: 8e7823e2-0e92-4470-8860-653246345f9d
Type: (application)

Name: Bootloader (Secondary) (2.1.15.14)
Desc: Service Engine Bootloader
id: 9d7b26fb-21b2-416e-8b65-425c2f8da5d8
Type: (bootloader)

Name: Core (8.5.1.0)
Desc: Service Engine OS Core
id: 430f25f9-0fed-48a4-b362-823937138501
Type: (application)

Name: GPL Infrastructure (8.5.1.0)
Desc: Service Engine GPL Infrastructure
id: 9f112eb1-6f58-4dd4-8faa-8530467af3b9
Type: (application)

Components:

Name: CUE Voicemail Language Support (8.5.1.0)
Desc: Languages global pack
id: e2e81cc6-39b5-47e1-9f83-b83c897fc50c
Type: (plug-in)

Name: CUE Voicemail US English (8.5.1.0)
Desc: English language pack
id: 27e5e2ab-1622-4c02-8a0a-cfad0d932148
Type: (plug-in)

```
Name: CUE Voicemail UK English (8.5.1.0)
Desc: British English language pack
      id: fa803d25-9c89-4171-a14c-ec12d6ed6b8c
Type: (plug-in)
```

```
se-172-16-0-0#
```

次の作業

1. データ ファイルと設定ファイルを復元します。「[付録 B : ファイルの復元](#)」(P.71) を参照してください。
2. システムを再起動します。
3. ライセンス ファイルをインストールし、ソフトウェア パッケージと同じバージョンであることを確認します。「[同じバージョンでの Cisco Unity Express ライセンスのアップグレードまたはダウンロード](#)」(P.65) を参照してください。
4. 新しいシステム機能を設定します。『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』を参照してください。



同じバージョンでの Cisco Unity Express ライセンスのアップグレードまたはダウン グレード

この章では、バージョンを変更せずに Cisco Unity Express システムのライセンス サイズを変更する方法について説明します。この章の手順は、より多数のメールボックスをサポートするライセンスにアップグレードする場合、少ないメールボックスをサポートするライセンスにダウングレードする場合、または自動音声応答装置 (IVR) ライセンスに変更する場合に使用します。

この手順はクリーンインストールです。つまり、アプリケーションでソフトウェア インストーラを使用します。クリーンインストールでは、新しいソフトウェア ファイルをバックグラウンドでダウンロードしている間も、システムを動作させておくことができます。設定ファイルはバックアップし、復元する必要があります。インストールに必要なのは FTP サーバだけです。

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Cisco Software Licensing \(CSL\) システム](#)」 (P.65)
 - 「[インストール手順](#)」 (P.66)
 - 「[メールボックス ライセンス](#)」 (P.66)
 - 「[自動音声応答装置ライセンス](#)」 (P.66)
 - 「[ボイス ポート ライセンス](#)」 (P.66)
- 「[タスク リスト](#)」 (P.67)
- 「[IVR ライセンスの変更](#)」 (P.67)

Cisco Software Licensing (CSL) システム

Cisco Unity Express 8.5 ライセンスは、Cisco Software Licensing (CSL) システムに基づいています。CSL ライセンスでは、メールボックスのライセンス カウントに、個人用メールボックスと GDM の両方が含まれます。メールボックスのタイプは、設定時に決まります。また、コールエージェントは、これまでのようにライセンスを使って指定するのではなく、インストール後プロセスの一部として、または起動中に設定できるようになりました。

CSL ライセンスのさらなる詳細について、本ガイドおよび『[Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』で説明しています。

インストール手順

ライセンスは次の順序でインストールします。

1. メールボックス ライセンス
2. ボイス ポート ライセンス
3. IVR ライセンス

メールボックス ライセンス

小さいメールボックス ライセンスに変更している場合は、新しいライセンスをダウンロードする前に、設定済みのメールボックス数を減らす必要があります。たとえば、50 メールボックス ライセンスから 10 メールボックス ライセンスにダウングレードする場合は、設定済みのメールボックス数が 10 を超えないようにします。10 を超すメールボックスがある場合は、ライセンスをダウングレードする前に、余分なメールボックスを削除してください。

ボイス ポート ライセンス

CSL ライセンスで注文した装置には、プリインストールされたいくつかのボイス ポート ライセンスが付属します。付属するライセンス数は、プラットフォームによって異なります。一部のプラットフォームでは、1 ライセンスごとに 2 つのボイス ポートの差分ボイス ポート ライセンスを追加できます。特定のデバイスでサポートされるボイス ポートの数については、『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

最終的なボイス ポート数が、ライセンスを所有する IVR セッション数に 2 を加えた数より多くなった場合、差分ライセンスのインストールまたは削除は失敗します。

自動音声応答装置ライセンス

IVR をインストールしている場合は、IVR ライセンスがプラットフォームおよび Cisco Unified Communications Manager システムと互換性があることを確認してください。『[Release Notes for Cisco Unity Express 8.5](#)』を参照してください。

タスク リスト

ライセンスを変更するには、次のタスクを実行する必要があります。

表 1 Cisco Unity Express ライセンスをアップグレードまたはダウングレードするためのタスク リスト

チェックリスト	チェック
<p>1. 現在使用しているライセンス SKU を確認します。次のリストから選択するか、『Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions』の説明に従って show コマンドを使用します。</p> <p>(注) IVR が必要な場合は、この目的に特化した追加ライセンスを購入する必要があります。</p>	
<p>メールボックス ライセンス</p> <ul style="list-style-type: none"> FL-CUE-MBX-5 FL-CUE-NR-MBX-5 	<input type="checkbox"/>
<p>ボイス ポート ライセンス</p> <ul style="list-style-type: none"> FL-CUE-PORT-2 FL-CUE-NR-PORT-2 	<input type="checkbox"/>
<p>自動音声応答装置ライセンス</p> <ul style="list-style-type: none"> FL-CUE-IVR-2 FL-CUE-NR-IVR-2 	<input type="checkbox"/>
2. 現在の設定を保存します。	<input type="checkbox"/>
3. 『 Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions 』の説明に従って、新しい CSL ライセンス ファイルをダウンロードしてインストールします。	<input type="checkbox"/>
4. 初期化ウィザードを実行します。GUI オンライン ヘルプを参照してください。	<input type="checkbox"/>

IVR ライセンスの変更

IVR ライセンスをアップグレード、ダウングレード、または削除できます。詳細については、『[Software Activation of Cisco Unity Express 7.1 and Later Versions](#)』を参照してください。

次の作業

- show license status application voicemail** コマンドを入力して、ボイスメール ライセンスのステータスを表示します。

```
se-10-0-0-0# show license status application voicemail
voicemail enabled: 6 ports, 2 sessions, 5 mailboxes
```
- show license status application ivr** コマンドを入力して、IVR ライセンスのステータスを表示します。

```
se-10-0-0-0# show license status application ivr
ivr enabled, 4 sessions
```

- **show license status application timecardview** コマンドを入力して、TimeCardView ライセンスのステータスを表示します。

```
se-10-0-0-0# show license status application timecardview
tcv enabled: 4 users
```

- **show software license** コマンドを入力して、システムのボイス ポート ライセンスを表示します。フィールド「Total usable system ports」に、使用できるポート数が表示されます。

新しいライセンスでシステムをリロードしていない場合、古いライセンス情報が表示されます。

```
se-1-100-50-125> show software licenses
Installed license files:
- voicemail_lic.sig : 100 MAILBOX LICENSE
- ivr_lic.sig : 2 PORT IVR BASE LICENSE
- port_lic.sig : 8 PORT BASE LICENSE

Core:
- Application mode: CCME
- Total usable system ports: 24

Voicemail/Auto Attendant:
- Max system mailbox capacity time: 18000
- Default # of general delivery mailboxes: 20
- Default # of personal mailboxes: 100

- Max # of configurable mailboxes: 120

Interactive Voice Response:
- Max # of IVR sessions: 2

Languages:
- Max installed languages: 5
- Max enabled languages: 5
```



付録 A：ファイルの手動バックアップ

システムをオフラインにした後、EXEC モードでバックアップ コマンドを入力します。オフライン状態の場合、システム設定は使用できません。



(注)

システム ファイルやアプリケーション ファイルに変更を加えた場合は、常に設定ファイルをバックアップすることを推奨します。データ ファイルにはボイス メッセージが含まれるため、毎日バックアップして、ハードウェア障害などによるデータの損失を最小限に抑えてください。

スケジュール バックアップの設定などのファイルのバックアップの詳細については、『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』および GUI オンライン ヘルプを参照してください。

バックアップ ファイルの番号付け

4 種類（データだけ、設定だけ、履歴データ、すべて）のバックアップ要求を実行できます。

- データ：ボイスメール メッセージをバックアップします。
- 設定：実行設定、グリーティング、録音済みの名前、カスタム スクリプト、プロンプトをバックアップします。 **show run** コマンドを使用して、現在の実行設定を表示します。
- 履歴データ：モジュールで発生した通話およびアプリケーション アクティビティに関する履歴情報をバックアップします。
- すべて：すべてのデータと設定情報をバックアップします。

Cisco Unity Express により、バックアップ ファイルに番号と日付が自動的に付けられ、**backupid** フィールドで改訂番号が識別されます。

異なる時間に異なる種類のバックアップを実行すると、データのバックアップと設定のバックアップには異なるバックアップ ID が割り当てられます。たとえば、データの最後のバックアップ ID が 3、設定の最後のバックアップ ID が 4 となることがあります。「すべての」バックアップを実行すると、データ、履歴データ、設定のバックアップ ID は 5 となります。

ファイルを復元する場合は、使用するバックアップ ファイルのバックアップ ID を確認してください。バックアップ ID のリストを表示するには、**show backup server** コマンドを使用します。

前提条件

- データをバックアップする前に、バックアップ サーバを設定しておく必要があります。『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』および GUI オンライン ヘルプを参照してください。

手順の概要

1. `backup category {all | configuration | historicaldata | data}`
2. `continue`
3. `show backup history`
4. `show backup server`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	backup category {all configuration historicaldata data} 例 : se-10-0-0-0 (offline) # backup category all se-10-0-0-0 (offline) # backup category configuration se-10-0-0-0 (offline) # backup category data se-10-0-0-0 (offline) # backup category historicaldata	バックアップして保存するデータのタイプを指定します。
ステップ 2	continue 例 : se-10-0-0-0 (offline) # continue	オフライン モードを終了し、EXEC モードを開始します。
ステップ 3	show backup history 例 : se-10-0-0-0 # show backup history	バックアップ手順と復元手順、およびこれらの操作が成功したか失敗したかを表示します。
ステップ 4	show backup server 例 : se-10-0-0-0 # show backup server	バックアップ サーバで使用できるバックアップ ファイル、各バックアップの日付、バックアップ ファイル ID を表示します。



付録 B : ファイルの復元

バックアップ ファイルを作成した後は、必要に応じてファイルを復元できます。復元はオフラインモードで行います。アクティブ コール、IMAP、VoiceView セッションは終了し、新しいコールは受け付けられません（自動応答へのコールは行えます）。復元は、電話加入者の利用が最も少ない時間に行ってください。

show backup server コマンドを使用して、復元するファイルのバックアップ ID を見つけます。

ファイルの復元の詳細については、『[Cisco Unity Express Voice-Mail and Auto-Attendant CLI Administrator Guide for 3.0 and Later Versions](#)』および GUI オンライン ヘルプを参照してください。

手順の概要

1. **show backup server**
2. **offline**
3. **restore id backupid category {all | configuration | data}**
4. **reload**
5. **show backup history**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show backup server 例： se-10-0-0-0# show backup server	データおよび設定のバックアップ ファイルを一覧表示します。復元するファイルの改訂番号は、バックアップ ID フィールドで確認します。
ステップ 2	offline 例： se-10-0-0-0# offline	オフライン モードにします。アクティブなボイスメール コールはすべて終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<pre>restore id <i>backupid</i> category {all configuration historicaldata data}</pre> <p>例 : se-10-0-0-0(offline)# restore id 22 category all se-10-0-0-0(offline)# restore id 8 category configuration se-10-0-0-0(offline)# restore id 3 category data</p>	バックアップ ID の <i>backupid</i> 値と復元するファイルのタイプを指定します。
ステップ 4	<pre>reload</pre> <p>例 : se-10-0-0-0(offline)# reload</p>	Cisco Unity Express モジュールをリセットして、復元した値を有効にします。
ステップ 5	<pre>show backup history</pre> <p>例 : se-10-0-0-0# show backup history</p>	バックアップ手順と復元手順、およびこれらの操作が成功したか失敗したかを表示します。



付録 C : 言語のアップグレードの準備

Cisco Unity Express ソフトウェア バージョンのアップグレード時に、サポートされるデフォルトのシステム言語を変更できます。アップグレードの一環として、システム言語のサポートを更新する場合には必要な作業があります。ユーザ、音声プロンプト、トリガー、または選択したカスタム スクリプトの手順で、システムのデフォルト言語とは異なる言語が定義されている場合は、システムのそれらの要素も更新する必要があります。更新しないと、ボイスメール ユーザがメールボックスにアクセスできなくなる場合があります。

アップグレード中にデフォルトのシステム言語を変更する場合は、**software install clean** コマンドを使用する必要があります。詳細については、「[次の作業](#)」(P.53) を参照してください。

特定ボイスメール ユーザの言語サポートの更新

次の手順を使用して、特定ユーザのボイスメール言語サポートを更新します。

手順の概要

1. **show users**
2. **show user detail username userid**
3. **username userid language xx_YY**

手順の詳細

-
- ステップ 1** **show users** コマンドを入力して、ユーザのリストを取得します。
- ステップ 2** ユーザごとに、**show user detail username userid** コマンドを入力します。
画面にボイスメール加入者と、その加入者のプロンプトに使用されている言語が表示されます。
言語サポートが、インストールする新しい言語と異なるユーザごとに、次の手順に進みます。
- ステップ 3** **username userid language xx_YY** コマンドを入力し、言語を **systemDefault** に変更します。
`username johnsmith language en_US`
-

システムの音声プロンプト言語の更新

次の手順を使用して、システムの音声プロンプト言語を更新します。

手順の概要

1. **show ccn prompts**
2. **ccn copy prompt *prompt-filename* url ftp://*destination-ip-address*/*prompt-filename* [language *xx_YY*] [username *name* password *password*]**
3. システムのアップグレードを実行します。
4. **ccn copy url ftp://*source-ip-address*/*prompt-filename.wav* prompt *prompt-filename.wav* [language *xx_YY*] [username *name* password *password*]**

手順の詳細

- ステップ 1** **show ccn prompts** コマンドを入力して、音声プロンプトのリストを取得します。
表示された各音声プロンプトは、個別にバックアップする必要があります。プロンプトは GUI を使用してバックアップできます。次の手順の CLI を使用することもできます。
- ステップ 2** 次のコマンド構文を使用して、各ファイルを FTP サーバにコピーします。
ccn copy prompt *prompt-filename* url ftp://*destination-ip-address*/*prompt-filename* [language *xx_YY*] [username *name* password *password*]



注意

この手順を実行しないと、音声プロンプトが消え、通常の復元手順では復元できなくなります。

- ステップ 3** システムのアップグレードを実行します。「次の作業」(P.53) の手順を実行します。
- ステップ 4** 新しい言語でシステムを初期化した後、GUI または次のコマンド構文を使用して各プロンプトをアップロードします。
ccn copy url ftp://*source-ip-address*/*prompt-filename.wav* prompt *prompt-filename.wav* [language *xx_YY*] [username *name* password *password*]

トリガーのアプリケーション プロンプト言語の更新

異なる言語にアップグレードする前に、まずすべてのトリガーがシステムのデフォルト値に設定されていることを確認する必要があります。次の手順を使用して、設定済みのトリガーのアプリケーションプロンプト言語を更新します。

手順の概要

1. **show ccn trigger**
2. **config t**
3. **ccn trigger {jtapi | sip} phonenumber *number***
4. **locale *xx_YY***

手順の詳細

- ステップ 1** **show ccn trigger** コマンドを入力して、システム上の設定済みトリガーに割り当てられている電話番号のリストを取得します。

- ステップ 2 `config t` を入力してコンフィギュレーション モードを開始します。
 - ステップ 3 `ccn trigger {jtapi | sip} phonenumber number` と入力して、JTAPI または SIP トリガー コンフィギュレーション モードを開始します。
 - ステップ 4 `locale xx_YY` コマンドを入力して、電話番号に対して JTAPI または SIP トリガーが起動されたときに発信者が聞く言語をシステムのデフォルト値に変更します。
-

カスタムの自動応答手順の更新

システムがカスタムの自動応答スクリプトを使用して設定されている場合、各手順で言語依存性が存在しないかどうかをチェックします。プロンプトを生成するセットアップには、言語を指定できるものがあります。カスタム スクリプトは、個別にバックアップしてください。アップグレード中に言語が変更された場合は、これらの手順を変更する必要があります。カスタム スクリプト作成の詳細については、『*Cisco Unity Express Guide to Writing and Editing Scripts*』を参照してください。

新しい言語サポートの確認

アップグレードを実行し、古い設定ファイルとデータを復元した後、自動応答および選択したボイス メール ボックスをテストします。ボイスメールのメールボックスにログインしたときに、正しいシステム グリーティングが聞こえることを確認します。自動応答で、すべてのプロンプトが正しくアップロードされるかどうかをチェックしてください。



INDEX

B

backup category コマンド [70](#)
boot helper [55](#)

C

Cisco Unified CME
 IP path コマンド [16, 17](#)
 Web 管理者 [18](#)
 フラッシュ メモリ ファイル [16](#)
Cisco Unified CME Web ページ [16](#)
Cisco Unified CME の IP path [16, 17](#)
Cisco Unified Communications Manager
 CTI ポート [20](#)
Cisco Unity Express
 ソフトウェア ファイル [27, 42, 56](#)
continue コマンド [70](#)
CTI ポート [20](#)

D

Device オプション [20](#)
DNS サーバ [23, 32](#)

E

ephone [16](#)
ephone-dn [16](#)
Etherswitch モジュール [17, 19](#)

G

G.711 ulaw [18](#)

I

interface integrated-service-engine コマンド [18, 20](#)
interface internal-service-module コマンド [18, 20](#)
interface ism コマンド [18, 20, 33](#)
interface Service-Engine コマンド [25](#)
interface sm コマンド [18, 20, 33](#)
IP
 アドレス [23, 32](#)
ip address コマンド [25, 33](#)
ip unnumbered コマンド [25, 33](#)
IP アドレス、Cisco Unity Express モジュール [17, 19](#)
IP 接続、設定 [17](#)
IVR [65](#)
 ライセンス、変更 [67](#)

J

JTAPI トラフィック、最優先 [21](#)

N

NTP サーバ [23, 32](#)

O

offline コマンド [71](#)

R

- reload コマンド [71](#)
- restore id コマンド [71](#)

S

- service-module ip default-gateway コマンド [34](#)
- service-module ism install コマンド [35](#)
- service-module ism status コマンド [37](#)
- service-module ism uninstall コマンド [37](#)
- service-module sm install コマンド [35](#)
- service-module sm status コマンド [37](#)
- service-module sm uninstall コマンド [37](#)
- service-module コマンド [26, 34](#)
- show backup history コマンド [70, 71](#)
- show backup server コマンド [71](#)
- show license status application ivr コマンド [67](#)
- show license status application timecardview コマンド [68](#)
- show license status application voicemail コマンド [67](#)
- show software versions detail コマンド [51, 62](#)
- show software versions コマンド [51, 62](#)
- SIP ダイアル ピア [18](#)
- SKU [67](#)

U

- UPS [11](#)

V

- VLAN インターフェイス [17, 19](#)

W

- Web 管理者 [18](#)
- Web ページ
 - Cisco Unified CME [16](#)

あ

- アクセス リスト [21](#)
- アクティブ コール
 - バックアップ [71](#)
- アップグレード
 - 言語 [73](#)
 - タイプ [10](#)

い

- インストール
 - ソフトウェア イメージ [56](#)

お

- オプション
 - Device [20](#)
- オフライン モード [69, 71](#)

か

- 管理者
 - パスワード [23, 32](#)
 - ログイン ID [23, 32](#)

け

- 言語
 - 削除 [29](#)
 - 追加インストール [26](#)
- 言語のアップグレード [73](#)

こ

- 工場設定のシステム制限 [11](#)
- 呼処理 [21](#)
- コマンド
 - backup category [70](#)

continue **70**
 interface integrated-service-engine **18, 20**
 interface internal-service-module コマンド **18, 20**
 interface ism **18, 20**
 interface Service-Engine **25**
 interface sm **18, 20, 33**
 ip address **25, 33**
 IP path **16**
 ip unnumbered **25, 33**
 ism **33**
 offline **71**
 reload **71**
 restore id **71**
 service-module **26, 34**
 service-module ip default-gateway **34**
 service-module ism install **35**
 service-module ism status **37**
 service-module ism uninstall **37**
 service-module sm install **35**
 service-module sm status **37**
 service-module sm uninstall **37**
 show backup history **70, 71**
 show backup server **71**
 show backup server コマンド **70**
 show license status application ivr **67**
 show license status application timecardview コマ
 ンド **68**
 show license status application voicemail **67**
 show software versions **51, 62**
 show software versions detail **51, 62**

さ

サーバ
 DNS **23, 32**
 NTP **23, 32**
 作成、ユーザおよび電話機の **15**

し

システム制限
 工場設定 **11**
 自動音声 - メール ライセンス **65**

せ

正常なシャットダウン **11**
 設定
 ephone-dn **16**
 IP アドレス **23, 32**
 ダイヤル ピア **18**
 設定、IP 接続の **17**
 前提条件
 Cisco Unified Communications Manager **19**
 Cisco Unified Communications Manager
 Express **15**

そ

ソフトウェア イメージ、インストール **56**
 ソフトウェア ファイル **27, 42, 56**

た

ダイヤル ピア **18**

て

デフォルト ゲートウェイ **24, 33**

は

バックアップ
 アクティブ コール **71**

ふ

復元

手順 [71](#)

む

無停電電源装置 [11](#)

も

モジュール IP アドレス [17, 19](#)